

リアホナ

末日聖徒であることは
開拓者であるということです,
24, 30, 56, 64ページ

人々を救う教師となるのを
助けてくれる6つの原則, 8ページ

シオンの陣営——中央幹部に学び,
従うという教訓, 14ページ

子育てにおける試練から
学んだこと, 34ページ



「1847年の開拓者たち」という旗の下に、1847年にソルトレーク盆地に入植した男性たちと女性たちが、1905年7月24日、入植記念日を祝うために集う様子。

4



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
報い——よく堪え忍ぶときに
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
彼らも一つとなるために

特集

- 12 ほんとうの奇跡
ドン・L・サール
パオラの癒しは奇跡でした。しかし、さらに大きな奇跡となったのは、救い主が彼女の家族の心を変えたことでした。

- 14 主の側に立つ——
シオンの陣営から学ぶ教訓
デビッド・A・ベドナー長老
仲間の聖徒たちを助けるため、
1,450キロもの道のりを旅した一団
から学ぶ貴い教訓。

- 24 耳を傾けることを学ぶ——
南アフリカにおける最初の
人種統合支部
マット・マクブライドとジェームズ・ゴ
ールドバーグ
アパルトヘイトの時代、これらの聖
徒たちは互いに耳を傾け、理解し、
互いを受け入れることで、愛するこ
とを学びました。

- 28 愛する国を癒す——
ジュリア・マビンベラの信仰
マシュー・K・ハイス
人生の悲劇を経験したにもかかわらず、
ジュリア・マビンベラはついに平
安を得ました。

- 30 デンデリア・ジャンェス——
女性の中の開拓者
クリントン・D・クリステンセン
見た夢と、感じた気持ちに従うこと
で、デンデリアは最も貴い受け継ぎ
を見いだしたのです。

- 34 神をパートナーとして息子を育てる
カミ・クルックストン
ADHDの重い症状がある息子の
世話は、終わりのない試練のように
見えました。この経験から何を学
ぶことができるでしょうか。

シリーズ

- 8 救い主の方法で教える——
人々を救う手助けをする教師
ブライアン・ハンスブラウ
- 38 信仰の肖像——
ムリロ・ヴィセンチ・レイチ・リベ
イロ
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——
最後尾の幌馬車を押していた人々
J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長



表紙
ボリビアの開拓者家族の写真／レスリー・
ニルソン

48



- 44** わたしを救ってくれた唯一のもの
 アナ・リサ・クラーク・ミュレンが高山
 秀峰から聞き取った話
 わたしは落胆し、孤独でした。真の友
 に出会うことなどできるのでしょ
 うか。
- 48** 最も重要な役を演じる
 アニー・マコーミック・ボナー
 わたしはその劇で主役を演じることに
 心躍らせていました。——台本を読
 むまでは。

- 50** 一週間を通して強くある
 聖餐はあなたにとってどのような意味
 がありますか。
- 54** 教会指導者からの答え——
 証を得る方法
 ダリン・H・オークス長老
- 55** そこが知りたい
 正しい裁きとは何でしょうか。
 ビショップにポルノグラフィーのことを
 話すのですか。
- 56** 開拓者としてのあなた自身の旅——
 見せかけではなく、本物の
 アロン・L・ウェスト
 イエス・キリストに従う現代の開拓者
- 60** マノンに贈る歌
 リチャード・M・ロムニー
 マノンは病気のために余興の発表に
 は参加できませんが、友達に彼女のこ
 とを忘れてはいませんでした。
- 63** ポスター——より高く登る



76

- 66** シオンへの道
 ジェシカ・ラーセン
 メアリーは自分の力で、家族をはる
 ばるソルトレークまで連れて行かなけ
 ればなりません。彼女にそれ
 ができるのでしょうか。
- 68** 預言者のために断食する
 レベッカ・J・カールソン
 シリオティはおなかがすいていま
 すが、キンボール大管長のために断食
 したいと思いました。
- 70** 質問コーナー——「自分が断食を始
 められる年齢になったことは、ど
 のように分かりますか。」
- 71** 光を分かち合う
 ラリー・S・ケーチャー長老
 あなたはどんなに年がわかくても、キ
 リストのようなものはんになることがで
 きます。
- 72** 魔法のさいふ
 アマダ・ウォータース
 さいふを返すことで、何かほんとうに
 大きな変化があるのでしょうか。
- 74** 使徒からの答え——
 家族評議会とは何ですか
 M・ラッセル・バラード長老
- 75** 教会歴史の登場人物——
 カートランドと知恵の言葉
- 76** イエスのお話——
 イエスは多くの人々に食べ物をお
 たえになった
 キム・ウェブ・リード
- 79** 色をぬりましょう——
 わたしは聖文を読むのが好きです

こんげつごう なか
 今月号の中に
 隠れている
 リアホナを
 さが
 しましょう。
 ヒント——
 木のそばを
 みてみましょう。



56

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



「魔法のさいふ」72 ページ —— 家庭の夕べの始めに、「選べ、正義を」(『賛美歌』152 番) を歌うとよいでしょう。家族で、正義を選ぶ場面のロールプレイを行ってもよいでしょう。例えば、テストでカンニングをする、あるいは活動でだれかを仲間外れにするよう誘惑を受けたとき、どうするのでしょうか。家族の状況に合った場面を設定しましょう。

「家族評議会とは何ですか」74 ページ —— 家族評議会の備えとして、家族評議会のためのルールと目標を作るとよいでしょう。家族全員に参加してもらいます。ルールと目標の例として、電子機器の電源を切る、互いの話を聞く、今後の予定について話し合う、長期的な家族の目標を立てる、などがあります。家族評議会を家族の状況に合った楽しいものとし、皆が心待ちにするような内容にしましょう。

インターネットで得られる追加情報

lds.org/liahona?lang=jpn で記事を読み、分かち合い、検索しましょう。

ご意見・ご提案は liahona@ldschurch.org までお寄せください。

靈感あふれるメッセージを [facebook.com/liahona.magazine](https://www.facebook.com/liahona.magazine) (英語・ポルトガル語・スペイン語で閲覧可能) でさらに見つけることもできます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

安息日, 38, 50	教会歴史, 14, 24, 30, 64, 75	堪え忍ぶ, 4, 30, 34, 60, 80
イエス・キリスト, 7, 8, 41, 56, 63, 76, 80	悔い改め, 12, 55	断食, 68, 79
一致, 7, 24, 60	結婚, 40	弟子の務め, 14, 48, 56, 63, 80
教え, 8	謙遜, 14	伝道活動, 10, 28, 30, 42, 44, 71
改心, 12, 44	子育て, 34	奉仕, 4, 43, 60
開拓者, 14, 24, 28, 30, 56, 64	才能, 48	ホームティーチング, 43
家族, 12, 34, 74	シオンの陣営, 14	模範, 55, 71
家族歴史, 41	従順, 4, 14	勇気, 64, 72
奇跡, 12	正直, 72	友情, 44, 60, 71
逆境, 4, 14, 41, 44	女性, 28, 30, 64	赦し, 28
教育, 40	信仰, 4, 40, 60, 64, 68	理解, 24, 28
	聖餐, 50, 54	
	聖典, 79	



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・
アイリング管長

報い—— よく堪え忍ぶときに

若いころ、ある賢明な地方部会長の顧問として奉仕したことがあります。会長はいつも、わたしを教えようと努めてくれました。あるとき次のように助言されたことを思い出します。「だれかと面談するときは、その人が非常に大きな問題を抱えているかのように接してください。ほとんどの場合、実際そうなのですから。」当時のわたしは、彼を悲観的な人だと思いました。それから50年以上たった今では、彼がこの世と人生について、いかによく理解していたかが分かります。

わたしたちは皆、試練に、時には非常に困難な試練に直面します。わたしたちが試練を経験することを主がお許しになるのは、わたしたちが磨かれ、完全な者となり、永遠に主とともにいられるようにするためです。わたしたちはそのことを理解しています。

試練をよく堪え忍ぶなら永遠の命を受けるにふさわしい者となるうで助けを得られると、主はリパティエの監獄で預言者ジョセフ・スミスに次のように教えられました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」(教義と聖約 121:7-8)

一生の間には、よく堪え忍ぶのが難しいと思えることが多々起こります。作物を育てて生計を立てる家族は、雨が降らないときによく堪え忍ぶのが難しいと思うかもしれません。「いつまで持ちこたえられるだろうか」と不安に襲われることでしょう。また、迫りくる汚れと誘惑の洪水に立ち向かう青少年にとっては、よく堪え忍ぶことは難しいと思えるかもしれません。妻子を養うために仕事を得ようと、必要な教育や訓練を受ける

べく奮闘する青年、仕事が見つからない人や会社の倒産のために繰り返し職を失った人も、そのように思うことでしょう。

健康を損ない体力の衰えに直面すると、それが若いときであれ晩年であれ、自分の場合であれ愛する人の場合であれ、よく堪え忍ぶのが難しいと思うことでしょう。

しかし、愛にあふれる神は、単にわたしたちが困難に耐えられるかどうかを試すためにそのような試練を与えられるのではありません。むしろ、それらの試練をよく堪え忍ぶことができるかどうか、その結果として磨かれたかどうかを御覧になるのです。

パーリー・P・プラット長老(1807-1857年)は、十二使徒定員会の会員に召されたばかりのとき、大管長会から次のように教えられました。「あなたは完全な献身を求められる大義に召されました。……研ぎ澄まされた矢となり……数々の困難、労働、窮乏に耐え、完全に磨かれた者とならなければなりません。……天の御父はそうすることを求めておられます。この畑もこの業も、天の御父のものです。天の御父が……あなたを励まし、……支えてくださるでしょう。」¹

へブル人への手紙の中で、パウロはよく堪え忍ぶことで得られる実についてこう述べています。「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」(へブル 12:11)

わたしたちが経験する試練や困難は、学び成長する機会を与えるものであり、わたしたちの性質そのものを変えることさえあります。窮地に陥ったとき、救い主に頼ることができれば、わたしたちの魂は堪え忍ぶことによって磨かれるのです。

そのために覚えておくべきことの第1は、常に祈ることです(教義と聖約 10:5; アルマ 34:19-29 参照)。



時期を経験しています。当時を振り返ってみると、自分に変化があったことに気づくでしょう。悪を行う誘惑が弱まったように見え、善を行う望みが増すのです。あなたをいちばんよく知り、愛してくれる人たちに、こう言われたかもしれません。「前よりも親切で忍耐強くなりましたね。まるで別人みたいですよ。」

あなたはもう以前のあなたではありません。イエス・キリストの贖罪しよぐいを通して変えられたのです。それは、試練であって主に頼ったからです。

皆さんに約束します。主を求め、主に仕えるなら、主は試練の中にある皆さんを必ず助けに来てくださいます。その過程を通じて、皆さんの魂は磨かれるのです。どのような逆境にあるときでも、主に信頼を置くよう、皆さんにお勧めします。

わたしは、父なる神が生きておられ、わたしたちの祈りのすべてに耳を傾け、こたえてくださることを知っています。神の御子イエス・キリストがわたしたちのすべての罪の代価を支払われたこと、そしてわたしたちがみもとに来るよう望んでおられることを知っています。御父と御子が見守ってくださること、わたしたちがよく堪え忍び、再び天の家に帰る道を備えてくださったことを知っています。■

注

1. *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1979年) 120

第2は、周囲にどのような反対、誘惑、あるいは混乱があったとしても、戒めを守るように絶えず努めることです (モーサヤ4:30 参照)。

第3に行うべき大切なことは、主に仕えることです (教義と聖約4:2:20:31 参照)。

主に仕えることで、わたしたちは主を知り、愛するようになります。祈りと忠実な奉仕をもって堪え忍ぶなら、わたしたちは人生において救い主の御手みてと聖霊の影響を認識するようになるでしょう。わたしたちの多くは、そのように奉仕し、神との交わりを感じられた

このメッセージから教える

わ たしたちは皆、堪え忍ぶ信仰と能力が試されるチャレンジを受けます。あなたが教える人々の抱える必要と試練について考えてください。訪問前には、彼らがよく堪え忍ぶうえで、さらなる助けをもたらす方法が分かるように導きを求めて祈るとよいでしょう。祈る、奉仕する、戒めを守るなど、アイリング管長が教える原則と聖句について話し合うことも考えられます。あなたが祝福を受け、それがどのように堪え忍ぶ助けとなったかについて、個人的な経験を分かち合ってもよいでしょう。



「主よ、われと共に」は
lds.org/go/7176 から
ダウンロードすることができます。

友達が亡くなったとき

サマンサ・リントン

高校1年生のとき、脳の血管のこぶが破れ、次の日に亡くなった友達がいました。わたしは教会の会員ですが、それでも苦しい思いをしました。どんなことでも天の御父と救い主に頼るようにと教えられて育ちましたが、このようなことを経験するのは初めてでした。

何であれ、心に平安をもたらしてくれるものを見いだそうとしながら、何時間も涙

を流しました。彼女が亡くなった日の夜、わたしは賛美歌集を開きました。ページをめくっていると、「主よ、われと共に」が目にとまりました（『賛美歌』94番）。3番の歌詞が心に響きました。

主よ、われと共に
とどまりたまえ
主を離れるとき、
闇は迫る

光が失せなば、
われは恐る

おお、日は暮れゆくを 救い主よ

おお、とどまりたまえ われのもとに

この歌詞を読むと、深い平安に包まれました。救い主がその夜ともにいってくださいただけでなく、わたしの思いをすっかり御存じだということが分かりました。賛美歌を通して感じた主の愛のおかげで、その夜を乗り切ただけでなく、堪え忍んできたほかの多くの試練をも、乗り越えてくることができましたのです。

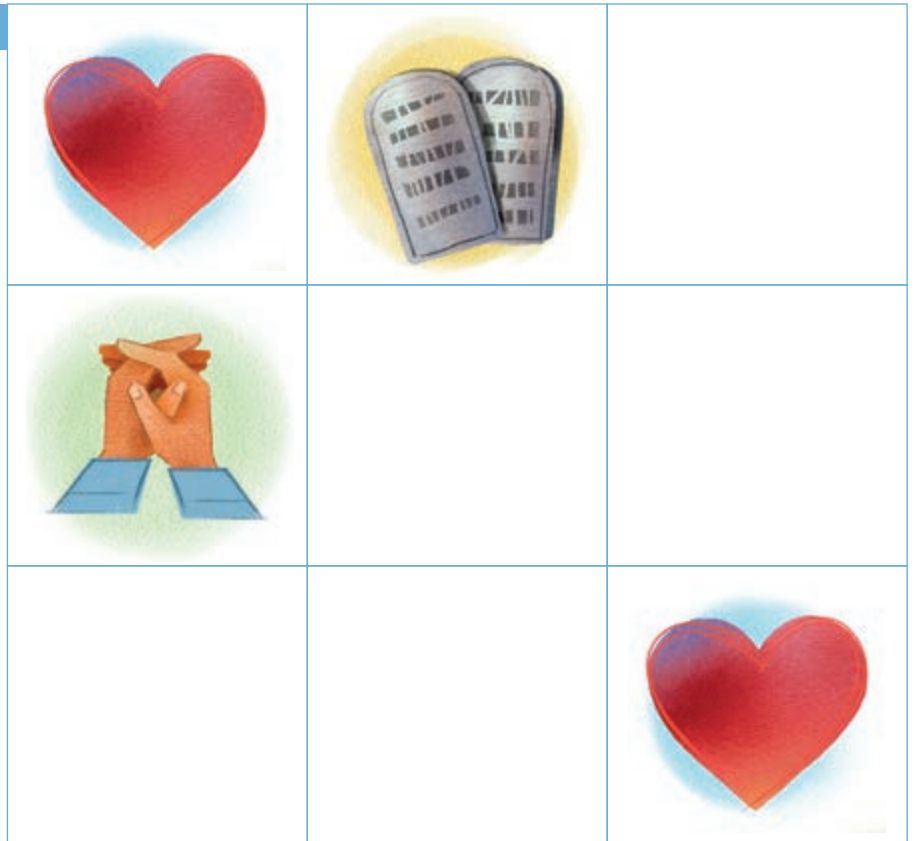
筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

子供

イエスに心を向ける

イエスに心を向けるとき、イエスはわたしたちが人生で会うむずかしい問題を乗り越えられるように助けてくださいます。人々を愛すること、いましめを守ること、イエス・キリストの御名によって天のお父様にいのことはすべて、イエスに心を向ける方法です。

たて・横・ななめそれぞれに、愛といのりといましめの絵がならぶように、空いている四角に絵をかき入れましょう。



彼らも一つとなるために

よく祈りながらこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるよう靈感を求めてください。扶助協会の目的を理解することで、神の娘たちはどのように永遠の命の祝福へと備えられるでしょうか。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は次のように教えています。「イエスは御自分の肉も霊も御父の御心に従わせることで、御父と完全に一致されました。

……確かに、わたしたちは神とキリストの御心と関心事を自分たちの最大の望みとしないうるまで、御二方と一つになることはできません。そのような従順は一日で達成できるものではありません。しかし、もしわたしたちが望むのであれば、御父が主の内におられるように、主がわたしたちの内にもおられると、間違いなく言えるようになるまで、主は聖なる御霊を通してわたしたちを導いてくださいます。」¹

中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹は、この一致に向かってどのように努力すべきかを次のように教えています。「聖約を交わして守ることは、救い主のようになるという決意を表すことです。理想としては、親しまれている賛美歌の歌詞に、最もよく表現されている態



信仰
家族
扶助

度を身につける努力をすることです。『主よ、み旨のまま行かん……主よ、み旨のまま言わんみ旨に添いまさん。』²

クリストファーソン長老はまた、「毎日、毎週、キリストの示された道に従って歩もうと努めるとき、わたしたちの霊は肉体に対して優位を主張し、内なる戦いは静まり、誘惑は力を持たなくな[る]」と指摘しています。³

中央若い女性会長会第二顧問のニール・F・マリオット姉妹は、自分の思いを神の御心に添わせるよう努力することで得られる祝福について次のように証しています。「わたしは、自分の方法で物事を行いたいという肉の思いを消し去ろうと努めてきました。そうするうちに、自分の方法がイエス・キリストの方法と比べて非常に欠陥だらけで、視野が狭く、劣っている

ことを実感しました。『[天の御父の]道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。』⁴ へりくだり、天の御父と御子イエス・キリストと一つとなるべく努力しましょう。

その他の聖句と資料

ヨハネ 17：20 - 21；エペソ 4：13；教義と聖約 38：27；www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn

注

1. D・トッド・クリストファーソン「『彼らをもわたしたちのうちにおらせるため』『リアホナ』2002年11月号、72-73
2. リンダ・K・バートン「聖約を守ることから生じる力と喜びと愛」『リアホナ』2013年11月号、111
3. D・トッド・クリストファーソン「『彼らをもわたしたちのうちにおらせるため』」72参照
4. ニール・F・マリオット「心を神に委ねる」『リアホナ』2015年11月号、32



考えてみましょう

神の御心を行うことは、わたしたちがさらに御父に似た者となるうえで、どのような助けとなるでしょうか。

人々を救う手助けをする教師

教会教科課程開発部
ブライアン・ハンズブラウ

救い主が教えを説かれた理由により、救い主が教えを説かれた方法は意義深いものとなっています。わたしたちの目的と何か違いがあるでしょうか。

わたしは救い主の方法で教えることについて考えるとき、自分には次のことに集中する傾向があることを認めます。「救い主はどのように教えられたか。何を行われたか。人々とどのように対話されたか。」いずれにしても、救い主は卓越した教師でした。しかし、わたしたちは救い主のように教えなければ、なぜ救い主は教えを説かれたのかを理解することが不可欠です。結局のところ、その「なぜ」がわたしたちに、またわたしたちが教える人々に大きな違いをもたらすのです。

救い主が教えを説かれたとき、その目的は、時間を消化することや楽しむこと、たくさんの知識を提供することではありませんでした。教えることはもとより、救い主が行われることはすべて、御父のもとに人々を導くことを意図しているのです。そもそも救い主の望みと使命は、天の御父の子供たちを救うことなのです（2 ニーファイ 26：24 参照）。救い主が教えられた

ように教えようとするとき、わたしたちは、救い主の動機となった同じ目的に動機づけられるようになります。

言い換えれば、救い主の方法で教えるとは、人々を救う手助けをすることを目的とする教師になるということです。

人々を救いたいという強い願い

モルモン書の中でわたしが大好きな話の一つに、モーサヤ王の息子たちについてのものがあります。彼らは、レーマン人の間に神の王国を築くことができるように、ニーファイ人の王国に別れを告げました。天の王国のために地上の王国を投げ出したのです。彼らは



ニーファイ人の中にある安全で安心できる快適な生活を投げ出して、敵であるレーマン人の中に入って行きました。「わずかな人でも救えるのではないか」と思ったからです(アルマ 26:26)。

これらの主の僕たちを動機づけたのは何でしょうか。「彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。まことに、無窮の苦痛を受ける人がいると考えただけで、彼らは震えおののいた。」(モーサヤ 28:3)それが動機となって、彼らは「多くの苦難」に耐えることになりました(アルマ 17:5, 14)。

わたしはこの話に促され、こう考えたことが何度もあります。「わたしはキリストのもとに人々を導くために、自分が行えることを行っているだろうか。人々を救うことに十分目を向けているだろうか。」

人々を救う手助けをする教師になる

救い主が教えられた同じ理由で教えたいとわたしたちが強く願うとき、救い主が教えを説かれる方法についての原則がより大きな意味を持ちます。単なるテクニックではなく、それは救い主のようになるための手本として役立ちます。『救い主の方法で教える』の中に見られるものだけでなく、次のアイデアも一貫して応用するとき、わたしたちは、もっと救い主のように教えるだけでなく、もっと救い主のようになることができます。

早い段階から啓示を求める

人々を救う業を手助けするために、わたしたちには啓示が必要です。啓示は「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」与えられます(2ニーファイ 28:30)。そして、それには時間がかかります。したがって、早い段階から準備を始め、しばしば啓示を求めます。





人々を愛する

愛は、教師が人々を救う手助けができる最も有効な方法かもしれません。それは、クラスの各人の名前を覚えることや、彼らに1週間のことを尋ねること、彼らがどれほどすばらしい話をしたか告げること、あるいは進歩や達成について彼らを褒めることと同じくらい簡単であるかもしれません。関心と愛を示せば、心が開かれ、わたしたちの教える人々が聖霊を受け入れる助けとなります。

学習者の必要を心に留めて教える準備をする

人々を救う手助けをする教師は、学習者に焦点を当てます。わたしたちはレッスン資料に目を通すとき、自分の必要ではなく、学習者の必要を最も良く満たす事柄に焦点を当てます。時間を過ごす方法のことは忘れて、心と思いを満たすことに重点を置きます。自分が言うことや行うことだけでなく、学習者が何を言い、何を行うだろうかということについても考えます。彼らの考えていることを分かち合ってもらいます。この方法は、彼らが一致し、心を開き、信仰を働かせるのに役立ちます。

いつも教義に集中する

教師はどれほど多くの人々が参加したかによって自分の教え方の効果を評価しがちですが、それは経験の一つの要素にすぎません。クラスで多くの分かち合いをしながら、教義をほとんど採り上げないとしたら、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が「神学的な嗜好品」と呼んだものを提供していることとなります。味わいのあるものを提供していますが、支えとなる教義の力でクラスの会員を養うことに失敗しているのです。

預言者ジョセフ・スミスはこう教えています。「人が救われるには、まず

知識を得なければなりません。』¹ わたしたちの教える人々がイエス・キリストの教義という最も重要な知識を得られるように助けなければなりません。

わたしたちの思いや気持ちをクラスの人々と分かち合うときは、いつも、それを聖文や末日の預言者たちの言葉に関連づけるようにします。先だって、中央日曜学校会長のタッド・R・カリスター兄弟が次のように教えました。「理想的な教師は、クラスの意見を教義と関連づけるように絶えず努めます。例えば、教師はこう言うことができます。『皆さんが紹介してくださった経験から、わたしは一つの聖句を思い出しました。』あるいは、『これまでに聞いた意見から、どのような福音の真理を学べるでしょうか。』あるいは、『これまで話し合ってきたその真理の力について、証^{あかし}を述べたい人はいますか。』」²

聖霊を招いて証していた

教師として語り、行うことは、ほかの人々の生活に聖霊の影響を招くことを目的としています。人々を救う手助けをする教師は、このことを理解しています。聖霊こそほかならぬ教師なのです。聖霊の役割の一つは、真理について、特に御父と御子について証することです。したがって、わたしたちは御^{おふたかた}二方と御二方の福音について教えるときに、聖霊を招いてクラスの人々へ証していただきます。彼らが受け入れる度合いに応じて、聖霊はその力によって彼らの証を強め、彼らの心を変えてくださいます。聖霊の証は目で見るよりも力強いのです。³

自分で学び、行動するよう学習者に勧める

わたしが最近出席した日曜学校のクラスで、教師はレッスンを始めるに当たり、生徒に対し、その週の聖文の割り当てを読んだ中で特に彼らにとって有意義であったことと、それを生活



にどのように応用したかを紹介するように言いました。これによって、彼らが自分で得た洞察と発見した事柄について、活発な話し合いが始まりました。その教師はごく自然に、彼女が教える準備をしてきた教義上の要点をこの話し合いに加えたのでした。わたしがとても感動したのは、自分で神の言葉の力を経験するようクラスの人々を促すことに、彼女がどれほど心を向けていたかということです。

教師であるわたしたちの目標は、クラスですばらしい経験をすることや、時間を過ごすこと、良いレッスンを行うことだけではありません。ほんとう

の目標は、天の御父とイエス・キリストのもとに帰る旅を、ほかの人々と共にすることなのです。わたしたちの目標は、人々を救う手助けをする教師になることです。■

『救い主の方法で教える』と教師評議会集会によってわたしたちの学び方と教え方をどのように変えることができるかについて、さらに詳しく学ぶには teaching.lds.org をご覧ください。

注

- 1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』266
2. タッド・R・カリスター, "Sunday School Discussion Is a Means, Not an End", *Church News*, 2016年6月9日付, deseretnews.com
- 3.『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』40 参照

ドン・L・サール

パオラ・ヤネスの身に起こったことは医療における奇跡だと、担当の医師たちは言いました。エクアドルのキトに住む10代の少女の病状が突然改善し、父親から片方の腎臓を提供してもらうことができ、移植手術も成功。再び人生を歩む機会を得たのです。

しかし父親のマルコ・ヤネスによると、彼自身に起こったことも同じくらい驚くべき経験でした。福音を見いだしたことによって生活が変わり、彼もまた新たな人生を歩む機会を得たのです。

幼いころに腎炎を患い、腎臓を傷めたパオラは、薬に頼って生きてきました。ところが15歳のときに症状が悪化します。片方の腎臓が機能不全に陥り、もう片方も働きが急速に低下していったのです。透析治療にもかかわらず、パオラはゆっくりと死に近づいていました。水は一日にコップ1杯しか飲むことを許されず、肺と^{すいぞう}膵臓と心臓も悪くなっていたため、活動も厳しく制限されました。

臓器移植を受けにアメリカ合衆国やキューバまで行くのはとても無理だったので、エクアドルでドナーを見つける必要がありました。検査の結果、父親はドナーに適していませんでした。母親は適していましたが、透析によりパオラの抗体値はとて高くなっていて、移植した臓器に拒絶反応が起こるだろうということが分かりました。パオラは自分の命が何とか助かるように祈りました。

そのようなときのことです。1988年6月、末日聖徒の宣教師がヤネス家の玄関のドアをたたきました。パオラの母親カルメンは、宣教師たちをからかうつもりで招き入れたそうです。あなたの助けとなるメッセージがあると言われ、カルメンは腹を立てて言い放ちまし

ほんとうの 奇跡

パオラの快復だけでなく、
父親の福音への改宗にも、
主の御手をはっきりと
見ることができました。



た。「娘が死にそうだっていうのに、何をどう助けてくれるって言うんです。神がいるなんて信じません。」

初めカルメンの反感を買ったにもかかわらず、宣教師はこの家族を訪問し続けました。最初のころ、マルコは自分には娘の世話があるので宣教師の話に注意を向ける余裕はないと感じていました。しかし好奇心から、ついに耳を傾けました。そして人生の目的について自分が抱く疑問の答えを宣教師が持っていることを知りました。

マルコは人格を持つ神を信じていませんでした。神は普遍的なエネルギーの源か、もしくは人間とかかわりを持つことのない偉大な遠い存在であると考えていました。それでも娘がきわめて重篤な状態に陥ったとき、マルコは祈りました。苦しむ娘を癒してくださるか、さもなければ天に召してくださるようにと神に願い求めたのです。「もし神が実在しておられるなら、どうぞわたしにお示しください。娘の命をお与えください。」

祈り終わると、マルコはパオラの容体が変わると強く感じました。そこで自分と娘をもう一度検査してほしいと医師に頼みました。医師たちは時間の無駄だと言いつつも、検査を行うことに同意しました。

検査の結果、マルコは実は適合するドナーであること、そしてパオラの容体が改善していて移植を受けられる状態であることが分かったのです！

手術の前日、マルコとパオラは宣教師から神権の祝福を受けました。

マルコもパオラも、手術後はしばらく病院で快復を待つつもりでした。ところがマルコは5日後に退院でき、2か月の入院を予定していたパオラも、わずか13日後に退院したのです。自分たちの快復が早かったのは神権の祝福のおかげであると考えたマルコは、宣教師のメッセージを真剣に受け止めなければならないことを悟りました。

マルコ・ヤネスと妻カルメンは、1988年9月11日にバプテスマを受けました。手術前に宣教師のレッスンを聞いていたパオラと、妹のパトリシアは、11月3日にバプテスマを受けました。そのときには父親がアロン神権を受けていたので、父親にバプテスマを施してもらうことができました。

ヤネス兄弟は、主が自分の心を変えるために、祈りにこたえてパオラのドナーになることを許して下さったのだと信じています。「手術を受けたのがわたしではなく妻だったなら、わたしは同じ生活を続けていたことでしょう」と彼は断言します。飲酒、喫煙、ギャンブルにおぼれる生活は、とても誇れるものではありませんでした。依存症を克服できたのは、祈りへの答えのおかげでした。ただしその道はとても険しく、神のほかに自分が変わるのを助けられる者はいなかっただろう、と彼は語ります。

ヤネス兄弟は、今は知恵の言葉と什分の一の律法について強い証あかしがあると言います。宣教師から学んでいたころ、パオラの月1,000米ドルの治療費を支払うために、彼は店を週7日開けていました。什分の一は「わたしにはとても受け入れ難いものでした」と思い返すヤネス兄弟ですが、安息日を聖く保つことを決意し、什分の一を納めることでマラキ書第3章10節に書かれている約束を試すことにしました。日曜日に店を閉めると、「日曜日に買っていた人たちが土曜日に、しかも前よりたくさん買ってくれたのです」とヤネス兄弟は言います。今では、週7日営業していたときよりもはるかに経済的に恵まれています。

過去を振り返るとき、マルコ・ヤネスは自分自身の中に起こった変化に驚きます。娘の命を救ってほしいと懇願したことが、家族全員を夢にも思わなかったほど高い霊性へと導いたのです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

主の

1834年に預言者ジョセフ・スミスが率いたシオンの陣営の行軍は、主の側に立つことを選んだ特筆すべき例です。シオンの陣営の経緯を振り返ることで、教会歴史におけるこの重大な出来事から、現代に通じる貴重な不変の教訓を学び、今日の生活や状況に生かすことができます。

シオンの陣営とは

1831年に、預言者ジョセフ・スミスはミズーリ州ジャクソン郡インディペンデンスをシオンの地、末日聖徒が集まる中心の場所、また聖書でもモルモン書でも言及されている新エルサレムと指定する啓示を受けました（教義と聖約 57:1-3 参照。黙示 21:1-2; エテル 13:4-6 も参照）。1833年の夏には、モルモンの入植者数は、ジャクソン郡の人口の約3分の1を占めるまでになっていました。急激に増加するモルモンの入植者たち、政治に及ぼす彼らの潜在的な影響力、またこの新規入植者の持つ独特な宗教的、政治的信条のために、同地域に住むほかの入植者は不安をかき立てられ、その結果、家を明け渡し、財産を放棄するよう教会員に強く要求するようになりました。1833年11月、入植者たちがこの要求に最終的に従わなかったため、ミズーリの住民は入植地を襲い、聖徒を強制的に立ち退かせました。

シオンの陣営の編成は、1834年2月、啓示によって命じられました（教義と聖約 103 章参照）。この主の軍のおもな目的は、ミズーリ州の州軍が入植者を護衛して無事にその家と土地まで連れ戻す義務を果たした後に、ジャクソン

が わ
側に立つ

シオンの陣営から学ぶ教訓





1833年11月、ミズーリ州の住民はミズーリ州ジャクソン郡に入植したモルモンを攻撃し、強制的に彼らを立ち退かせました。

郡のモルモンをさらなる攻撃から守ることでした。また、金銭や食糧、そして道徳的支援を貧しい末日聖徒に提供することも陣営の目的でした。そのようなわけで、1834年の5月から6月にかけて、200人以上の末日聖徒の隊員から成る一団が、預言者ジョセフ・スミスに率いられ、オハイオ州カートランドからミズーリ州クレイ郡までのおよそ900マイル（1,450キロ）を旅しました。ハイラム・スミスとライマン・ホワイトも、比較的少人数ではありましたが、ミシガン準州で隊員を募り、ミズーリ州で預言者の隊と合流しました。シオンの陣営には、ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、ウィルフォード・ウッドラフ、パーリー・P・プラット、オーソン・ハイド、そのほか教会歴史に名を連ねる多くの人たちが参加しました。

わたしの目的は、この過酷な旅について詳しく説明したり、霊的に重要な出来事をすべて列挙したりすることではありません。シオンの陣営の旅で起こったおもな出来事をいくつか簡単にまとめてみましょう。

- ミズーリ州のダニエル・ダンクリン知事は、モルモンの入植者が自分たちの土地に戻るために必要な、州軍による支援を約束したものの、それを実行することはなかった。

- 武力衝突を避け、地権争いを解決するために、教会指導者、ミズーリ州の役人、ジャクソン郡の市民の間で行われた交渉は満足のゆく合意に達しなかった。
- 最終的に、主はジョセフ・スミスにシオンの陣営を解散するよう指示を与え、主の軍が目指す目標を達成できなかった理由を示された（教義と聖約105：6－13、19参照）。
- 主はシオンが武力的な手段ではなく法的な手段によって回復される時に備え、地域における友好関係を築くよう聖徒に指示された（教義と聖約105：23－26、38－41参照）。

シオンの陣営は1834年6月末には幾つかの小グループに分けられ、最終的な除隊命令は、1834年7月初めの数日間に出されました。隊員のほとんどはオハイオ州に帰って行きました。

シオンの陣営から学べる教訓

聖徒をジャクソン郡の地に戻すことができなかったことから、シオンの陣営の試みは不成功に終わり、何の益もなかったと考える人もいました。陣営への参加を志願する信仰がなく、カートランドにいたある兄弟は、ブリガム・ヤングが帰って来たときに「あなたはジョセフ・スミスとミズーリに行ったこの無駄な旅で何か得たことはありましたか」と尋ねました。ブリガム・ヤングは、「この旅が目的としたことの全部です。わたしはこの旅で得た経験を、ジアーガ郡の全部の富とでも引き換えたいとは思いません」と即座に答えました。ジアーガ郡とは、当時カートランドのあった郡のことです。¹

「この旅が目的としたことの全部です」というブリガム・ヤングの答えについて真剣に考えるようお勧めします。宣言した目標を達成できなかったものの、生涯にわたる祝福を初期の聖徒たちに与え、わたしたちにも与えることのできるこの旅から学べる、最も大切な教訓は、何でしょうか。

嘲笑的^{ちやうしょう}な質問に対するブリガム・ヤング兄弟の答えから、少なくとも二つの大切な教訓を学ぶことができますと思います。

(1) 試され、ふるいにかけて、備えられるという教訓と、(2) 中央幹部をよく観察し、彼らに学び、従うという教訓です。声を大にして言いますが、この二つの教訓は、180年前のシオンの陣営の隊員以上には言わないまでも、今日のわたしたちも同様に、学び、応用すべき、大切な教訓なのです。



試され、ふるいにかけて、備えられるという教訓

主の軍の一員として行軍した忠実な聖徒たちは、試練と苦難を受けました。主はこう宣言しておられます。「わたしは彼らの祈りを聞いた。そして、彼らのささげ物を受け入れる。信仰の試練として、彼らがここまで連れて来られることは、わたしにとって必要であった。」(教義と聖約 105:19)

実に、文字どおりの意味で、シオンの陣営が経験した肉体的、霊的な試練を通じて、毒麦と麦がふるいにかけて(マタイ 13:25, 29-30; 教義と聖約 101:65 参照)、ヤギと羊が分けられました(マタイ 25:32-33 参照)。したがって、主の軍に加わった人々は、「だれが主の側に立つのでしょうか」という鋭い質問を突きつけられ、それに答えたのでした。²

ウィルフォード・ウッドラフが諸事を整え、シオンの陣営に加わる準備をしていたとき、友人や隣人たちはそのような危険な旅は企てないようにと警告しました。こう助言したのです。「行くな。もし行けば、命を失うだろう。」彼はこう答えました。「ミズーリ州に足を一步踏み入れた瞬間に心臓を射抜かれると分かっていたとしても、わたしは行きます。」³ ウィルフォード・ウッドラフは、自分が忠実であり、従順であるかぎり、災いを恐れる必要はないことを知っていました。彼は明らかに主の側に立っていたのです。

実際、忠実な男女が「主の側に立つことを示す時」⁴は、1834年の夏に来たのです。しかし、預言者ジョセフ・スミスとともにミズーリまで行軍するという決断は、必ずしも、「だれが主の側に立つのでしょうか」という問いにこたえて一度だけ下した決断でもなければ、すべてを含む決断でも、即座に下した決断でもありませんでした。「主の側に立つことを示す時」は、精神的、肉体的な疲れ、足にできた血豆、腐った食物や汚れた水、数多くの落胆、陣営内での不和と反抗、そして邪悪な敵からの外的な脅威などを経験する中で、聖徒たちに何度も繰り返し訪れました。

「主の側に立つことを示す時」は、毎時間、毎日、毎週の経験と物資の不足の中で訪れました。こうした献身的



「教会には自分は善良だと思っ
ている男女が大勢いますが、
彼らは、力強い家長、勇敢な
宣教師、雄々しい家族歴史職員
や神殿職員など、何かの役に立
つ存在でなければなりません。」

な聖徒の生活における一見小さな選択と行動の壮大な組み合わせこそが、「だれが主の側に立つのでしょうか」という問いに対する最終的な回答となったのでした。

シオンの陣営に参加した人々の生活で起こった試みや精錬は、どのような備えとなったのでしょうか。興味深いことですが、1835年に十二使徒定員会に召された幹部のうちの8人、また時を同じくして召された七十人の全員が、シオンの陣営に参加した人々でした。七十人が召された後に開かれた集会で、預言者ジョセフ・スミスはこう宣言しました。

「兄弟の皆さん、あなたがたの中には、ミズーリ州で戦わなかったことで、わたしに対して怒りを感じている人がいます。しかし、聞いてください。神はわたしたちに戦うことをお望みになりませんでした。神は、自分の命をささげ、アブラハムのような犠牲を払った人でなければ、地上の国々で福音の扉を開けるための12人や、その指示の下に働く70人を召すことはおできにならなかったのです。

主は十二使徒と七十人を召されました。今後、さらに七十人の定員会が召されることでしょう。」⁵

確かに、シオンの陣営は、隊員全員にとって、また特に、主の教会の将来の指導者にとって精錬する者の火の役割を果たしました。

主の軍で隊員が得た経験は、教員が将来行うことになるさらに大規模な入植の備えとなりました。シオンの陣営の参加者のうち20人以上が、二つの大移動で隊長や副隊長となりました。一つ目の大移動は、わずか4年後で、8,000人から10,000人の人々がミズーリ州からイリノイ州まで移動しました。⁶二つ目は、それから12年後で、およそ15,000人の末日聖徒がイリノイ州からソルトレーク、そのほかロッキー山脈のふもとを目指す西部への大移動でした。備えの訓練であるシオンの陣営は、教会にとって計り知れないほどの価値がありました。1834年に時は至りました。その年が、ひいては1838年、そして1846年への備えとなったのです。

個人として、また家族として、わたしたちも、シオンの陣営の参加者と同様、試され、ふるいにかけてられ、備えられるのです。主イエス・キリストを信じる信仰、また聖約を交わし、尊び、覚えること、神の戒めを守ることによって、わたしたちは強められ、現世の試練と苦難に備え、立ち向かい、それを克服し、そこから学ぶことができます。聖文と中央幹部の教えには、こうした約束がたくさんあります。

主の教会の指導者は、わたしたちが今の時代、この世代に遭遇するはずの全体的あるいは世代的な試練の幾つかをはっきりと指摘してきました。1977年、地区代表の集会で、

十二使徒定員会会長であったエズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994 年）は預言者として警告の声を発しました。これからベンソン大管長の言葉をたくさん引用します。その時宜^{しきぎ}にかなった助言をしっかりと心に留めてください。

「どの世代にもその世代特有の試練があり、その世代の特徴を示す機会があります。わたしたちが遭遇する最も厳しい試練の一つは何でしょうか。ブリガム・ヤングが語った警告の言葉に耳を傾けてください。『わたしがこの民について最も恐れているのは、彼らがこの国で富める者となり、神とその民を忘れ、肥え太り、自らこの教会にとどまることができなくなって、地獄へ行ってしまうことです。この民は暴力、略奪、貧困、そしていかなる迫害にしても、それらに耐え、忠実さを貫くでしょう。しかし、わたしが最も心配しているのは、彼らは富に耐えられないということです。』」

ベンソン大管長はこう続けます。「そこで、わたしたちが受ける試練は、最も大きな試練のように思われます。なぜなら、敵対する者のたくらみはさらに捕らえ難く、巧妙になっているからです。それほど大きな脅威には見えず、正体も見抜きにくいのです。義を試される試練はどれも苦しみが伴います。しかし、この繁栄という試練に限っては、試練には見えません。苦しみが無いので、あらゆる試練の中で最も陥りやすい試練と言えます。

平和と繁栄が民にどんな影響を与えるか分かりますか。民を霊的に眠らせるのです。モルモン書は、末の日にわたしたちを巧みに地獄に誘い落とすサタンの策略について警告しています。主は王国を勝利に導くために約 6,000 年の間取っておかれた潜在的な霊の巨人を準備しておられます。サタンはそのような人々を眠らせようとしています。敵対する者は、彼らに多くの重大で悪質な作為の罪を犯させようとしても、恐らく大した成功は得られないだろうことを知っています。ですから、あのガリバーと同様、彼らを深く眠らせ、小さな無作為の罪で身動きを取れなくするのです。眠気眼^{まなこ}で、どっちつかずのなまぬるい巨人が、指導者として何の役に立つでしょうか。

教会には、もっと精力的に家庭、王国、そして国家を高めへと導く霊の巨人となるはずの人が数え切れないほどいます。教会には、自分は善良だと思っている男女が大勢います

が、彼らは、力強い家長、勇敢な宣教師、雄々しい家族歴史職員や神殿職員、熱心な愛国者、献身的な定員会会員など、何かの役に立つ存在でなければなりません。要するに、わたしたちは奮い立ち、霊的な居眠りから目覚めなければならないのです。』⁷

こう考えてください。現代における豊かさ、繁栄、そして安楽は、その程度において、シオンの陣営の行軍に志願した聖徒が耐えた迫害や肉体的な苦難と同じ、もしくはそれよりも大きな試練となり得ます。預言者モルモンは、ヒラマン書第 12 章に記されている、高慢のサイクルに関する見事な要約の中でこう述べています。

「このことからわたしたちは、人の子らの心がどれほど不誠実で不安定であるかを知ることができる。まことに、主を信頼する者たちを、主が大いなる限りない慈しみをもって祝福し、栄えさせられるということも、わたしたちは知ることができる。

また、主が御自分の民を栄えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民を救い出し、また宣戦することのないように敵の心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。」（ヒラマン 12:1-2）

特に後半の節の最後の言葉に注目してもらいたいと思います。「これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。」

ハロルド・B・リー大管長（1899 - 1973 年）も、わたしたちが今日の世界で直面している安楽というだれもが陥る試練について教えています。「わたしたちは試されます。恐らくわたしたちは自分が経験している試練の厳しさを理解していないでしょう。初期の時代、教会員は暗殺され、暴徒の



襲撃を受け、家を追われました。砂漠に追いやられ、飢えに苦しみ、着る物もなく、寒さに震えました。そして、この恵まれた地にやって来ました。わたしたちは彼らが残してくれたものを受け継いでいます。しかし、それを使って何をしているのでしょうか。今日、わたしたちは世界の歴史でこれまでに一度も目にしたことのないぜいたくに浸っています。これは恐らく、これまでの教会の歴史で一度も経験したことがないような厳しい試練なのかもしれません。」⁸

末の日にもたらされる試練と苦難に関する現代の預言者と古代の預言者のこうした教えは、はっとさせられる厳粛なものです。しかし、落胆させるための教えであるはずはなく、わたしたちは恐れる必要ありません。見る目と聞く耳を持つ人々は、霊的な警告を与えられることで、ますます油断なく目を覚ましていられるようになります。わたしたちは「警告の時」に生きています（教義と聖約 63：58）。これまで警告を受けており、これからも警告を受けることになるのですから、使徒パウロが勧告したように、「絶えず……目をさましてうむことがな〔い〕】ようにしていなければなりません（エペソ 6：18）。目を覚まし、備えるとき、わたしたちは確かに恐れる必要がなくなります（教義と聖約 38：30 参照）。

だれが主の側に立つのでしょうか。今こそ、こうした靈感に基づく警告を受け入れ、それにこたえる思いと心があることを示す時です。今こそ、繁栄、高慢、豊かさ、安楽、そしてかたくなな心、主である神を忘れるという末日の試練に立ち向かうために目を覚まし、備えていることを示す時です。今こそ、天の御父と愛する御子から託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たし、神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むことを示す時です（アルマ 53：20 - 21 参照）。

中央幹部をよく観察し、彼らに学び、従うという教訓

主の軍の忠実な聖徒たちは、中央幹部をよく観察し、彼らに学び、従うことによって祝福を受けました。わたしたちは今日、シオンの陣営の敬虔な参加者たちが示した模範と忠実さから多くの恵みを受けることができます。

1834年4月、パーリー・P・プラットの助言に従い、ウィルフォード・ウッドラフはオハイオ州カートランドまで旅をして、シオンの陣営に加わりました。ウッドラフ兄弟が初めて預言者ジョセフ・スミスに会ったときの記録から、わたしたちは皆、教訓を学ぶことができます。

「生涯で初めて、わたしはこの末の日に神の啓示をもたすために神がお選びになった愛する預言者ジョセフ・スミスと会って、話をしました。最初に会ったときの印象について言えば、預言者のあるべき姿、風貌について心に抱いていたこの世的な先入観を満足させるようなものではありませんでした。預言者を見て信仰が揺らぐ人もいたかもしれません。預言者と兄のハイラムは、2丁の拳銃で標的目がけて撃っているところでした。二人が撃つのをやめたとき、わたしはジョセフ兄弟に紹介されました。ジョセフ兄弟の握手はこれ以上ないほどに心のこもったものでした。カートランドに滞在中、自分の家に遠慮なく宿泊するよう勧められました。この勧めをわたしは心から気持ちよく受け入れました。彼の家に滞在中、わたしはたくさんのお勧めと祝福を受けました。」⁹

注目すべきことだと思いますが、ウッドラフ兄弟はしばらくの間、預言者宅に住み、紛れもなく、ありふれた日常生活の中で預言者をよく観察するというすばらしい機会にあずかりました。また、恵まれて、「預言者のあるべき姿、風貌について心に抱いていたこの世的な先入観」を超えて、ありのままの預言者を見る目がありました。そのような誤った先入観があるために物事を正しく見るのでできない人が、今の世の中では、主の回復された教会の中や外に、たくさんいます。

十二使徒定員会で奉仕するよう2004年に召された結果、わたしが、中央幹部をよく観察し、彼らに学び、従うことの意味がよく分かる立場にあることは明らかです。日常レベルで、この教会の指導者の個性、様々な好み、高潔な人格が理解できるようになりました。中央幹部の人間的な限界や欠点に気づいて、悩んだり、信仰を失ったりする人がいます。わた



中央幹部の教えからも、
彼らの模範的な
生活からも学ぶことが
できるということを、
わたしたちは皆、
覚えておかなければ
なりません。

しに関して言えば、そのような弱点があるからこそ信仰が強められています。主が啓示された教会の管理規範は、人の弱さが与える影響に備え、その影響を軽減するものです。主が、御自身の選ばれた指導者に欠点や弱点があるにもかかわらず、そのような僕を通して御心を成し遂げられるのを目の当たりにするのは、わたしにとって実に奇跡です。彼らは自分たちが完全だとは主張しませんし、実際のところ、完全ではありません。しかし、神から召されていることは確かなのです。

主の軍とともにミズーリ州に徒歩でやって来たとき祭司であったウィルフォード・ウッドラフは、後に十二使徒定員会会員となり、こう言っています。「わたしたちはほかの方法では味わうことのできない経験をしました。〔預言者〕の顔を見ながら、1,000 マイル (1,600 キロ) もともに行軍し、神の御霊が彼とともにあり、彼に降ったイエス・キリストの啓示が成就する様子をこの目で見る特権にあずかったのです。……シオンの陣営とともに行軍しなかったら、今日のわたしはなかったでしょう。」¹⁰

1834 年 4 月の最後の日曜日、ジョセフ・スミスは何人かの教会指導者に対し、預言者の塾に集まったシオンの陣営の隊員に向けて証を述べるように言いました。兄弟たちの証

が終わると、預言者は立ち上がり、それらの証に啓発され、教えられたと述べました。それから彼はこう預言しました。

「主の前であって皆さんに申し上げたいと思います。皆さんはこの教会と王国の行く末について、母親の膝にいる幼子ほどしか知っていません。皆さんはまだ理解していません。……今夜ここで皆さんが見ているのは、わずか一握りの神権者だけですが、この教会は南北アメリカを満たし、世界を満たすでしょう。」¹¹

ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、オーソン・プラット、ウィルフォード・ウッドラフといった人々が、その夜、預言者から多くのことを聞き、学び、何年もたってから、将来を言い当てた宣言の成就に貢献したのです。彼らは預言者をよく観察し、預言者から学び、預言者に従いました。何とすばらしい機会にあずかったことでしょう。

中央幹部の教えからも、彼らの模範的な生活からも学ぶことができるということを、わたしたちは皆、覚えておかなければなりません。預言者ジョセフ・スミスが明言した教会の発展に関する壮大なビジョンを念頭に置きつつ、預言者が日常的で平凡でありながらも必要な務めを果たすことによって示した個人としての模範の力について考えてください。ジョージ・A・スミスは、自身の日記に、ミズーリ州への行軍



「だれが私の側に立つのでしょうか。」今こそ、この末の日に、地上における神の御業を監督し、指示するよう神から召された生ける使徒と預言者の助言を聞き、耳を傾ける時です。

で受けた日々の試練に預言者がどのように対処したか記しています。

「預言者ジョセフは、旅の間中ひどく疲れていました。必要物資の調達や陣営の管理に加え、行程の大半を徒歩に頼らざるを得なかったため、足には水ぶくれ、出血、靴ずれが絶えませんでした。……しかし旅の間、ジョセフは決して不平を漏らすこともつぶやくこともありませんでした。一方で、陣営のほとんどの人々は、つま先の靴ずれや足の水ぶくれ、長い行軍、食糧の不足、粗末なパン、味の悪いとうもろこしの堅焼きパン、腐ったバター、悪臭を放つちみつ、うじのわいたベーコンやチーズなどについて、ジョセフに不平を言いました。犬にほえられたことについてさえ、彼らはジョセフにつぶやきました。野営地の水質が悪ければ、暴動が起きそうな状態でした。シオンの陣営に属しているにもかかわらず、多くの人が祈らず、思慮に欠け、軽率で、不注意で、愚かで、悪魔に従い、それでもなおそのことに気づいていませんでした。ジョセフはわたしたちに忍耐強く接し、子供に教えるように教えなければなりませんでした。」¹²

ジョセフはアルマが教えた原則の力強い手本です。「教えを説く者は聞く者よりも偉いわけではなく、教える者は学ぶ者よりも偉いわけではないので、……このように、彼らは

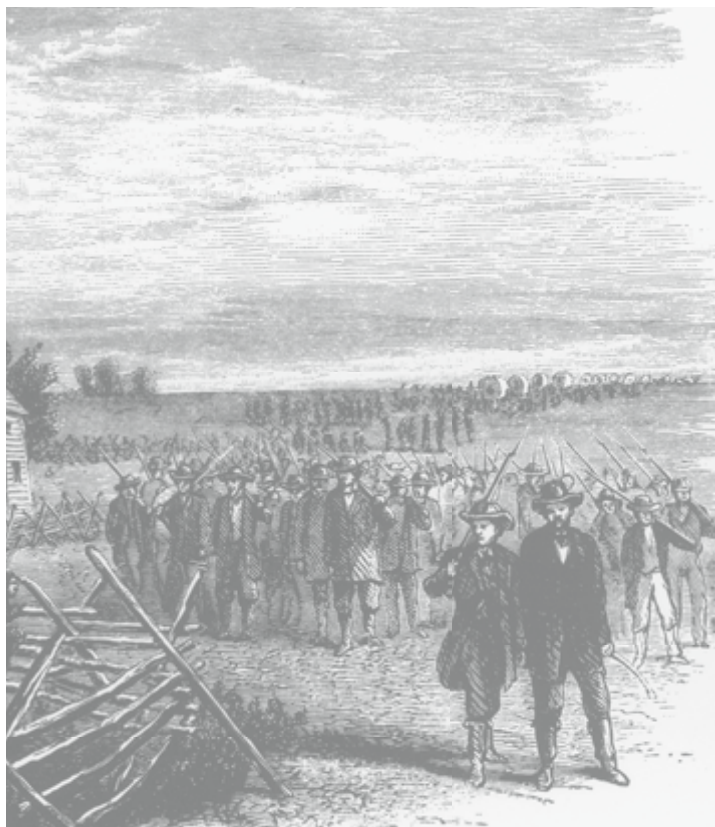
皆、平等であった。そして、彼らは皆、各々自分の力に応じて働いた。」(アルマ 1:26)

中央幹部として召されてからというもの、わたしは老化の影響、つまり肉体の限界と絶え間ない苦痛から突きつけられる容赦ない要求に向き合う一部の中央幹部をよく観察し、彼らから学ぶよう努めてきました。こうした中央幹部が、心と、勢力と、思いと、力を尽くして人々に仕えるときに、人知れず静かに苦しみに耐えていることを皆さんは理解できないでしょうし、理解することはないでしょう。ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008年)、ジェームズ・E・ファウスト管長(1920 - 2007年)、ジョセフ・B・ワースリン長老(1917 - 2008年)、ボイド・K・パッカー会長(1924 - 2015年)、L・トム・ペリー長老(1922 - 2015年)、リチャード・G・スコット長老(1928 - 2015年)、そしてそのほかの使徒職を有する同僚たちとともに奉仕し、彼らをよく観察してきました。この経験からわたしは、ともに奉仕するこれらの幹部は、最も真実かつ最も称賛に値する意味において、高潔で偉大な霊の戦士であると、はっきりと権威をもって宣言することができます。その忍耐、粘り強さ、勇気によって、彼らは「キリストを確固として信じ[る]」ことができるのです(2ニーファイ 31:20)。これは、わたしたちが見習うに値する模範です。

リー大管長は、教会員全員が受けるもう一つの試練について警告しています。「現在、わたしたちは別の試練、高度な知識の時代とでも言うべき試練に遭遇している。現代は多くの賢明な人々が主の預言者に耳を傾けようとしない時代である。……これは過酷な試練である。」¹³

高度な知識という試練は、繁栄と安楽という試練と対を成しています。わたしたち一人一人が中央幹部をよく観察し、彼らから学び、彼らに従うことは何と大切なことでしょう。

「だれが主の側に立つのでしょうか。」今こそ、この末の日に、地上における神の御業を監督し、指示するよう神から召された生ける使徒と預言者の助言を聞き、耳を傾ける時です。今こそ、神の「言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。〔神御〕自身の声によろうと、〔神〕の僕たちの声によろうと、それは同じである」と信じていることを示す時なのです（教義と聖約 1:38）。今こそ証明する時です。今こそ、その時なのです！



わたしたちのシオンの陣営

わたしたちはそれぞれの人生のある時期に、自身のシオンの陣営で行軍するよう招かれることがあるでしょう。その招きがいつ来るかは人によって異なり、その旅でどのような特定の障害に遭遇するかも人によって異なるでしょう。しかし、この避けることのできない呼びかけに絶えずこたえ続けることが、「だれが主の側に立つのでしょうか」という質問への答えとなります。

自らを証明する時は、今であり、今日であり、明日であり、永遠にあるのです。これまでに述べた、試され、ふるいにかけられ、備えられるという教訓、中央幹部をよく観察し、彼らから学び、彼らに従うという教訓を忘れることがありませんように。■

2010年7月30日にブリガム・ヤング大学アイダホ校で行われた教育週間ディボーションにおける説教、「Who's on the Lord's Side? Now Is the Time to Show.」（「主の方には誰が立つや」）からの抜粋。

注

1. ブリガム・ヤングの言葉。B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of the Church*, 第1巻, 370 - 371 で引用
2. 「主の方には」『賛美歌』165 番参照
3. *The Discourses of Wilford Woodruff*, G. ホーマー・ダーハム編 (1946 年), 306
4. 「主の方には」『賛美歌』（英文）260 番
5. ジョセフ・スミスの言葉。ジョセフ・ヤング・シニア, *History of the Organization of the Seventies* (1878 年), 14. *History of the Church*, 第2巻, 182 も参照
6. アレクサンダー・L・ポー, “From High Hopes to Despair: The Missouri Period, 1831 - 39”, *Ensign*, 2001 年 7 月, 44 参照
7. エズラ・タフト・ベンソン, “Our Obligation and Challenge,” 地区代表セミナー, 1977 年 9 月 30 日, 2 - 3; 未発表原稿
8. ハロルド・B・リー, “Christmas address to Church employees”, 1973 年 12 月 13 日, 4 - 5; 未発表原稿
9. ウィルフォード・ウッドラフの言葉。マシアス・F・カウリー, *Wilford Woodruff: History of His Life and Labors* (1909 年), 39 で引用
10. ウィルフォード・ウッドラフの言葉。 *The Discourses of Wilford Woodruff*, 305 で引用
11. ジョセフ・スミスの言葉。『歴代大管長の教え—ウィルフォード・ウッドラフ』25 - 26 で引用。Conference Report, 1898 年 4 月, 57 でウィルフォード・ウッドラフにより引用されているジョセフ・スミスの言葉も参照
12. ジョージ・A・スミス, “My Journal”, *Instructor*, 1946 年 5 月号, 217
13. ハロルド・B・リー, “Sweet Are the Uses of Adversity”, *Instructor*, 1965 年 6 月号, 217

耳を傾ける ことを学ぶ

南アフリカにおける 最初の 人種統合支部

教会歴史部

マット・マクブライドとジェームズ・ゴールドバーグ

ス テーク会長のオレブ・タイムと向かい合って座ったとき、56歳のフランス・レックワチの目に涙があふれました。フランスの住んでいる町、南アフリカのソウェトに教会の支部を作ることについてどう思うか、タイム会長から尋ねられたのです。

「どうして泣いているのですか。わたしが何か気に障ることを言いましたか」と、タイム会長は尋ねました。

「いいえ。」フランスは答えました。「物事を決める前に白人から意見を求められるなどということは、南アフリカで初めてのことです。」



上——南アフリカで厳しく実施されたアパルトヘイト政策で、白人専用地域に指定されていた海岸。

右——自由と平等を求めるヨハネスブルグでの1952年の抗議活動。

アパルトヘイトの下での生活

それは1981年のことでした。当時、南アフリカの黒人と白人は、アパルトヘイト（訳注——南アフリカ共和国の有色人種差別政策）として知られる法制度の下で人種差別されていました。この法律上の分離と、アフリカの黒人男性を神



権に聖任してはならないという教会の制限事項が相まって、長年、南アフリカの黒人の間で教会は発展しませんでした。スペンサー・W・キンボール大管長が神権の制限を解除するという啓示を受けた1978年に、新たな時代が始まりました。しかし、人種差別の問題と人種間の文化的な相互不信は、依然として続きました。

南アフリカの黒人の圧倒的多数は、黒人居住区に住んでいました。それらの居住区はたいがい、ヨハネスブルグのように大部分が白人の都市の外れにありました。最大の黒人居住区が、ソウェト（訳注—— Soweto, すなわち South Western Townships〔南西居住地区〕）でした。白人が黒人居住区へ行くことはほとんどなく、また、都市に行った黒人が白人と同等に扱われることはまれでした。

フランスと彼の家族はソウェトに住んでおり、1970年代に回復された福音を受け入れたソウェトの少数の住民の中に含まれていました。当初、彼らはヨハネスブルグワードに出席しました。フランスの息子ジョナスは、日曜日には午前4時に起きていたことを思い出します。家族は早朝の列車に乗ってヨハネスブルグへ向かい、その後、長い距離を歩いて、集会が始まる午前9時前に教会堂に着きました。家族はいつも早く起きていました。とはいえ、時々子供たちにとっては、初等協会の間ずっと目を覚ましたままではいるのは難しいことでした。

人種統合の開拓者であることは、感情的な問題に直面する場合もあるということです。ジョサイア・モハビは、6歳の白人の男の子が教会で出会った黒人たちについて語った



1991年に新しいソウェト支部の建物の献金式に臨んだ、南アフリカで最初の黒人扶助協会会長ジュリア・マビンベラ。（彼女に関する次の記事の話を参照）

写真／教会歴史図書館の厚意により掲載

侮辱的な言葉を耳にしたときのことを思い出します。「正直に言って、わたしはひどく腹が立ちました」と、ジョサイアは語ります。しかし、そのときに彼は、男の子の母親が息子にこう言うのを聞きました。「教会はみんなのためにあるのよ。」その言葉に慰められ、ジョサイアは冷静になれました。

ソウェトに支部を？

タイム会長は、黒人の会員が肉体的な問題や感情的な問題に直面しているのを知っていました。そして、ソウェトに支部を作れば彼らが集いやすくなると思いましたが、ヨハネスブルグに歓迎されていないかのように感じてほしくないとも思いました。そこで、何らかの対応策を取る前に、フランスなど、ソウェトに住む会員たちを面接して、彼らの気持ちを確かめることにしたのです。すると彼らははっきりとこう答えました。「ぜひともソウェトに教会を作ってほしいです。」

タイム会長は、新しい改宗者を指導する助けができる経験豊かな指導者を探しました。そして、ヨハネスブルグの会員200人以上を面接して最終的に40人を招き、新しい支部

「わたしたちは、教会外で起こっていた事柄については合意していないかもしれませんが、教義については合意しました。」

に長期間所属して、その地の開拓者となる地元の指導者たちの訓練に当たってもらうことにしました。

黒人の会員たちがヨハネスブルグワードに出席するために

「わたしたちは
経験を通してのみ見方を
変えることができます。
わたしたち全員にこのような
人生での経験が必要です。
それによってわたしたちは
変わります。」

町の別の場所へ行き、別の文化に溶け込もうとしてきたように、白人の会員たちも、ソウエトで奉仕するときに、新たな環境と文化に順応しなければなりません。物事が常に順調に進んだわけではありません。初等協会会長を務めるように召されたモーリン・ファン・ゼイルは、ある週の扶助協会集会で、開会の歌として当時の南アフリカ国歌が選ばれたとき、それをまったく気にしませんでした。ところが、すぐに次のことを知りました。南アフリカの黒人はその国歌をアパルトヘイトの象徴と見なしており、黒人の姉妹たちの多くがその選曲に腹を立てたのです。

黒人の会員も白人の会員も、このような誤解のために気持ちが悪く感じそうになりました。しかし、彼らはそれを話し合いと改善の機会と見るようにしたのです。「わたしたちはあらゆる事柄を共有しました」と、モーリンは振り返ります。「黒人として何が不快であり、白人のわたしたちは何を不快と思ったか。彼らがどのように対処し、わたしたちはどのように対処したか。それはまさに、一緒に学ぶすばらしい時でした。」

ソウエトの支部がさらに強くなり、さらに大きくなると、それをモデルとして、ほかの幾つかの黒人居住区に支部が置かれました。クムブラニ・ムドレトシは、ダーバンに近いクワマシュ黒人居住区に住んでいる若い男性でした。1980年に教会に加入したとき、彼は、当時の南アフリカにおける黒人の若者たちのほとんど全員と同様、白人に対して不信感を抱いていました。しかし、統合支部で礼拝する体験をしたことで、彼の見方は変わったのでした。

人々を一つにする接着剤

1982年に、クムブラニと支部の数人の若者たちは、ヤングシングルアダルトの大会に出席するように招待されました。彼らの支部会長はジョン・マンフォードという名前の白人の兄弟で、若者たちが最も魅力的に見えるようにと願いました。しかし、見栄えのよい服を持っている者はほとんどいませんでした。そこで彼は自分のクローゼットを開放して、若者たちにスーツを配り、彼らはそれを着て大会へ行きました。次の日曜日、マンフォード会長は、クムブラニに貸していたスーツを着ていました。「わたしが着た同じスーツを白人が着るとは、思ってもいないことでした。でも、会長はそうしました」と、クムブラニは回想しています。「会長の助けがあり、わたしは以前とは違った目で白人を見るようになりました。」

現在地域幹部七十人のムドレトシ長老は、こう述べています。「わたしたち全員にこのような人生での経験が必要でした。それによってわたしたちは変わりました。」



南アフリカの国旗は、アパルトヘイト後の結束の象徴として1994年に制定された。黒・黄・緑はアフリカ民族会議を表し、赤・白・青はボア諸共和国を表している。



写真：南アフリカ、ヨハネスブルグ神院

南アフリカのアパルトヘイトは1994年に終わりました。今日、住民の大半が黒人の地域にも、住民の大半が白人の地域にも、多くの集会所があり、さらに混在する地域が増えているのは、より多くの自由があるということです。黒人居住区における最初の支部の開拓者たちのように、様々な経歴を持つ会員たちが、神の王国を築き上げるために一緒に礼拝し、働いています。

現在のソウェトステークの会長、サボ・レベソアは、福音は分離の時代に人々を一つにする接着剤のようなものであると述べています。「わたしたちは、政治やそのほか、教会外で起こっていた事柄については合意していないかもしれませんが、教義については合意しました」と、彼は述べています。その共通の基盤から働きかけることにより、人々は、じっくりと意見を交換し、霊的な感性を働かせて耳を傾ける時、互いの相違から学ぶことができます。「リーダーシップに関して最も重要なことの一つは、人々の話に耳を傾けることです。耳を傾けてください。そうすれば、理解することができます。耳を傾けてください。そうすれば、感じるすることができます。耳を傾けてください。そうすれば、靈感を受け

ることができます。」

初期のソウェト支部の会員であるジュリア・マビンベラの娘、トーバ・カールハラは、耳を傾けることは不可避の摩擦を回避して、苦痛を伴う分離を招かないようにするのに役立つ、ということに同意しています。「わたしは耳を傾け、わたしに腹を立てそうな人の不満を理解するようにします」と、彼女は語ります。

ムドレトシ長老は、今日の南アフリカの聖徒たちに、多様性の中に、特に評議会場に強さを見いだすよう促し、こう言っています。「主はあらゆる階層の人々を食卓の周りに座らせて、様々な話題について話をされるのがお好きでした。」主が教会の全体で地元の指導者に呼びかけておられるのは、過去の世代の人々が主を支援したように、引き続き様々な経歴を持つ人々から指導者を立てるということなのです。ムドレトシ長老の言葉によれば、新たな地域や新たなグループに手を広げようとするときに、「経験豊かな人々を見つけようとはしません。教会で経験を積むのです。中心に人々を集め、一緒に働いてもらうことによって、経験を積むのです。」■

引用文は2015年に著者が行った会見によるものです。

愛する国を癒す^{いや} —— ジュリア・マビンベラ の信仰

教会歴史部
マシュー・K・ハイス

ジュリア・マビンベラの人生は1955年に突然変わりました。夫のジョンが交通事故で亡くなったのです。現場に残った証拠から、事故の相手方である白人男性が夫の車線に割り込んできたことは明らかでした。しかし、その男性の過失は却下されました。それどころか、黒人は運転が下手だからジョンに事故の責任があると、白人の警察官たちは言ったのです。¹

ジュリアは37歳で子供が4人、おなかにもう1人いました。人種差別と警察と司法制度から不当な扱いを受けてきました。しかし、最終的に恨みに負けないことを学び、キリストのような奉仕によって、癒しを受けること、愛する祖国を癒すことに、人生をささげたのです。これができたのは、祖国に対する彼女の愛と、神を信じる信仰、自分の信仰の原則に従って生きる献身的な努力があったからでした。

ジュリアは1917年に5人きょうだいの末っ子として生まれ、父親はジュリアが5歳のときに亡くなりました。母親は洗濯婦や家政婦として働き、女手一つで子供たちを育てました。

ジュリアの母親は信仰心の強い女性で、聖書に基づいて子供を教えました。「母はわたしに、人生の苦い薬を飲み込むことと、決して振り返らずに前を向いて生きることを教えてく



ジュリアはジョンに出会い、1946年に結婚した。

れました」とジュリアは言います。ジュリアの母親は教育の大切さも理解していて、限られた資金を精いっぱいやりくりして子供が正規の学校教育を受けられるようにしました。

ジュリアはさらに訓練と教育を受け、ジョン・マビンベラに出会って1946年に結婚するまで、教師や校長として働きました。ジョンは食料品店と精肉店を経営しており、ジュリアは教職を辞めてそこで働きました。二人は力を合わせて家を建て、子供をもうけました。アパルトヘイトのために不自由はありましたが、生活は悪くありませんでした。ところが、夫の死ですべてが変わってしまったのです。

夫の墓石にジュリアはこんな言葉を刻みました。

妻と親族のいとおいしい思い出とともに
ジョン・フィリップ・マビンベラ
ここに眠る
しこりは残るものの
その魂に平安あれ

4行目について、ジュリアはこう語っています。「これを書いたときに残っていたしこりとは、憎しみと恨みというしこりでした。事故を引き起こした男性と、うその証言をした警察官たちと、夫の死亡原因となった事故の責任が夫自身にあるとした法廷に対する

憎しみと恨みです。』²彼女の最大の試練は、この恨みと怒りを克服することでした。

夫の死から間もなくして、ジュリアは「眠れない」夜に夢を見ました。その夢にジョンが現れ、作業着を何着かジュリアに手渡して、「働きなさい」と言ったのです。彼女は、この夢を見た結果どうなったかをこう説明しています。「わたしは積年の煩いから抜け出す方法を見いだしました。それは、地域社会とかかわるということでした。」

20年後の1970年代半ばに、アパルトヘイトに対する黒人の対抗手段が、静かな抗議活動から過激な暴動へと変わりました。暴動の起こった場所の一つが、ジュリアの住むソウェトです。ジュリアはこう言っています。「ソウェトはそれまで見たこともない場所になりました。まるで戦場にいるようでした。」

ジュリアは恨みの傷口がまた開くことを恐れました。「夫が死んで20年以上たっていましたが、当時感じた苦しみがまだあったのです。」自分と周



デシデリア・ジャニェス

——女性の中の開拓者

教会歴史部
クリントン・D・クリステンセン

夢によって
回復された福音に
導かれた、
この教会初期の
メキシコ出身の
女性は、後に
筋金入りの
開拓者に
なりました。

18 80年代初頭のある夜、デシデリア・ジャニェスは、メキシコ、ノバラのサボテンの生えた丘にある住み心地の良いプエブロ（訳注——先住民集落の集合住宅）で寝ていました。そして夢の中で、人生を変え、霊的な面で助けになる『ボス・デ・アモネスタシオン（警告の声）』（Voz de Amonestación）というパンフレットを見たのです。目が覚めると、そのパンフレットを出版している人たちがメキシコ・シティーにいることを知りました。¹ 120キロを旅してその町まで行くことは自分には不可能だということも承知していました。しかし、夢で感じた気持ちに従い、どうしたらよいか方法を見つけることにしました。

家族の信仰

デシデリアがその夢について息子のホセと話し合ったところ、ホセは母親の言うことを信じて、母親の代わりにメキシコ・シティーに行きました。ホセはまず、熱意を込めて人々に声を掛けました。そして、ついに教会員のプロ

ティーノ・ロダカナティーに出会い、サンカルロスホテルに行くよう言われました。²

ホテルに行くと、ジェームズ・Z・ステュワート長老が、パーリー・P・プラットの『ボス・デ・アモネスタシオン』の印刷前の最後の確認をしているところでした。デシデリアが夢で見たのと同じパンフレットです。ホセがデシデリアの夢のことをステュワート長老に話すと、『ボス・デ・アモネスタシオン』は完成していなかったため、教会のほかのパンフレットを幾つかホセにくれました。ステュワート長老は、そのときの興味深い会話を日記に書いています。³

ホセはその後、砂ぼこりの舞う何キロもの道を母のもとに帰りました。デシデリアは、パンフレットが現実にあったと聞いて、自分の見た夢が正夢だったことを知りました。デシデリアは、ホセが持ち帰ったパンフレットをじっくり読み、そこに書かれている福音の基本的な教えに胸を打たれて、バプテスマを受けたいと思いました。



宣教師に見つけられて

ステュワート長老は依然として『ボス・デ・アモネスタシオン』を完成させる作業に取り組んでいたため、スペイン出身の宣教師メリトン・トレッホ長老が、デシデリアとホセを探すためにノパラに派遣されました。1880年4月22日、トレッホ長老はデシデリア・キンタナル・デ・ジャンェスと、ホセの娘カルメンにバプテスマを施します。デシデリアはメキシコ伝道部における22人目の改宗者であり、中央メキシコ初の女性改宗者でした。⁴

その月に、ホセは再びメキシコ・シティーを訪れ、『ボス・デ・アモネスタシオン』を10部持ち帰りました。デシデリアはついに、夢で見たパンフレットを目の当たりにしたのです。彼女にとってこのパンフレットは、主が自分のことを御存じで回復された福音に

導いてくださったことの、目に見える証^{あかし}でした。

初めてのスペイン語版モルモン書

デシデリアは72歳のときに、自分の健康状態が悪くなってきたと感じ、1886年には、ノパラの近くにあるサン・ロレンソの小さな自宅にこもりました。ある晩、恐ろしいことが起こりました。強盗に入れられ、殴られたうえに、3,000ドルを盗まれたのです。⁵ 命に別状はありませんでした。デシデリアは、嘆くことなく、信仰をもって主の助けを待ち望みました。自分の状況を神が御存じであることを、あの夢以来、知っていたのです。

そして1886年10月、一人の使徒と二人の伝道部会長が、予期せずしてその地域を訪問しました。母親の大変な状況をホセ・ジャニェスが話すと、この幹部の兄弟たちは、直ちにデシデリアの家にやって来ました。デシデリアは十二使徒定員会のエラスタス・スノー長老に会えたことを喜び、神権の祝福^{あんしゅ}の授けをもらいました。

この兄弟たちの訪問中に、新任伝道部会長のホレス・カミングズ会長が大きなニュースを伝えてデシデリアを驚かせました。初めてのスペイン語版モルモン書がソルトレーク・シティーで完成間近だと言ったのです。デシデリアは、近日出

版されるこの聖典を、即座に1冊注文しました。

1か月後、ホレス・カミングズ会長はスペイン語版モルモン書を1冊持って、デシデリアの家を再び訪ねました。このときのことをカミングズ会長はこう書いています。「病に伏した高齢のジャニェス姉妹を訪問し、ユタに発注していた未製本のモルモン書を渡した。これは、メキシコで初めて渡されたスペイン語版モルモン書である。……彼女はとてもうれしそうだった。」⁶ これがデシデリアの生涯で最後の、宣教師の訪問になります。

孤立していても忘れられてはいない

回復された福音が中央メキシコで宣べ伝えられるようになってわずか10年後の1889年、教会指導者は促しを感じて、教会の限られた資源を、メキシコ北部に入植地を築くことにつき込むことにしました。宣教師たちが北部に移ると、この植民地から約1,600キロ離れたメキシコ・シティー付近の会員たちは、羊飼いのいない羊になったようでした。周りに家族はいましたが、デシデリアは、自分たちが別個に福音を実践しなければならないことを知っていました。これは、扶助協会に加わる祝福も神殿の祝福も、生きている間に受けられないことを意味するのです。



しかし、主が自分を御存じであることを、彼女は知っていました。主は一人ずつ御自分の群れに導き入れたいと思っ
ていることを僕たちを通して明らかにしておられました。あの夢と、神権の祝福と、モルモン書のおかげで、デシデリアは絶対的な確信をもって、神は霊的にも物質的にも自分に何が必要かをよく知っておられると証することができました。これが分かるからといって、試練や問題が人生からなくなるわけではありませんが、神は常に重荷を軽くしてくださるとい
う確信が、この証から生まれました。

不朽の受け継ぎ

1903年に、1886年以来初めて、メキシコ南部に宣教師が戻って来ました。ホセは宣教師に会うと、妻も母も「モルモンイズムに完全に忠実な人生を全うした」のだから、自分も「モルモンイズムに従って人生を全うしたい」と言い、デシデリアが最後まで堪え忍んだことと、自分たちがその信仰を受け継いでいることを、手短かに伝えました。⁷

夢を見た後、デシデリアは福音の道を歩み始め、教会のラテン系女性の開拓者になりました。1880年に見た夢によって植えられた信仰の種は失われることなく芽を出しました。デシデリアがバプテスマの聖約を交わし、信仰をもって試練

を堪え忍んだからです。ほかの教会員から孤立して福音を
実践していたデシデリアとその家族は霊的に容易に枯れても
おかしくない状況にありました。しかし、デシデリアは持ちこた
えました。神が心に掛けてくださり、世界の片隅にいる自分
を見守ってくださることを知っていたのです。

デシデリアは家を離れることはできませんでしたが、彼女の家族だけでなく、開拓者精神をもって前進しようとするわたしたち一人一人にとっても、信仰と勤勉、従順、不屈の模範となりました。■

注

1. Alonzo L. Taylor Mission Papers, 1903年7月10日, および Mexican Mission Manuscript History and Historical Reports, 1903年7月7日, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティー参照
2. Taylor Mission Papers, 1903年7月10日, および James Z. Stewart Papers, 1880年2月17日, 教会歴史図書館参照
3. Stewart Papers, 1880年2月17日参照
4. モーゼス・サッチャー, Journal, 1879年11月20日, および Stewart Papers, 1880年4月26日と6月20日, 教会歴史図書館参照。デシデリアは、1879年にメキシコ伝道部がメキシコ・シティーに開設されてから初めてバプテスマを受けた女性である。しかし、1877年に北部の都市エルモシージョで短期間行われた伝道では、近隣の村で5人のバプテスマがあり、その中の一人マリア・ラ・クルス・パロスが、初めてバプテスマを受けたメキシコ人女性として知られている。モーゼス・サッチャーが記したメキシコ伝道部の公式記録には、デシデリア・ジャンニエスが最初の女性改宗者として記載されている。しかし実際には、彼女は2番目の改宗者である。Louis Garff Reminiscences, 日付不詳, 教会歴史図書館も参照
5. Horace H. Cummings Papers, 1886年10月24日, 教会歴史図書館参照
6. Cummings Papers, 1886年11月29日
7. Taylor Mission Papers, 1903年7月10日





神をパートナーとして 息子を 育てる

カミ・クルックストン

わ たしの子育ての理想は、いつもきれいな服を着て決して汚さない、完璧に行儀の良い子供を育てることでした。思い描いたそんなイメージが夢物語だということは、すぐに分かりました。わたしにとってこれ以上ないほどの驚くべき祝福を子供がもたらしてくれることを知っていたので、散らかった家や鼻水は気にならなくなりました。しかし、子育てでこんな苦勞を背負うことになるとは、想像だにできませんでした。特に息子のブラッドには苦勞しました。

ブラッドは、生まれたばかりのときはほかの子供と同じようにあどけない子でしたが、程なくして、普通ではないことが分かりました。非常に攻撃的であったため、夫かわたしが一緒でないかぎり、託児クラスには行けませんでした。大きくなってほかの子供たちと遊ぶようになると、いつとき目を離せませんでした。人に助けを求めると、もっと根気強くやればいいと言われました。考えられることは何でもしました。インターネットで検索し、子育ての本を読み、医師や家族に相談しました。ついにブラッドは、小学校に入るときに注意欠陥多動性障害、つまり ADHD と診断され、ほかにも問題をたくさん指摘されました。

わたしたちは初めて希望を感じました。診断が下りたからには、治療計画を立てることができます。ほかの子供に効果のあった薬がブラッドにも効くことを期待しました。しかし残念なことに、薬を飲むと言動がさらに悪くなるため、服用をやめざるを得ませんでした。わずかな希望すらなくなっていくように感じました。

ブラッドが6歳だったころのある日、いつものかんしゃくを起こしました。もうお手上げでした。わたしは自分の部屋に入ってしばし一人になると、涙が頬を伝いました。就寝の時間が近づいています。いつものように寝かしつけることができるよう力を祈り求めました。来る日も来る日もこんなことを繰り返すなんて、できるでしょうか。我慢の限界を超えていると思いました。これがどんなに大変なことか、天の御父は理解しておられるのでしょうか。わた

自分の得られる
靈感の源を
活用できるように
なると、
息子を助け、
試練にさらによく
立ち向かう
方法について
アイデアが次々に
浮かんできました。



夫とわたしは
役に立つ
手段を探し、
たくさん
見つけて
いたのですが、
いちばん
大切な、
祈りを忘れて
いました。



しをほんとうに愛しておられるのならば、この重荷を取り去って、息子が普通に生活できるようにして下さるはずではないかと思いました。直面している試練が軽くなるどころか重くなるように思えるにつれ、こんなふうを考え、感じるようになりました。

試練の本質

わたしは、試練とは何かを自分では理解していると思っていました。かまどで焼かれる壺^{つば}のように、試練をくぐり抜ければよいのです。火の中を入ったり出たりして、普通の生活に戻ったかと思うと、もう一度焼かれ、冷まされます。でも、わたしはこの試練を何年も受けていますが、休まる暇はありません。重荷がのしかかり、どうしようもない気持ちになって、ひざまずきました。

そのときに分かったのですが、慰めと理解を求めに行くべき場所は神殿でした。この世で受ける試練の内容と期間は選べないということを、靈感によって悟りました。自分にコントロールできるのは、試練を受けたときにどう考えて、どう行動するかです。

わたしが自分を哀れんでいたのは、惨めな気持ちが心の中に広がるのを許していたからだということに気づきました。そこでまず決心したのは、否定的な考えが浮かんだら、それを打ち消すことでした。「不公平だ」とか、「自分にはできない」とか、「ブラッドが普通になるわけがない」とか、最悪なのは、「わたしが悪い母親だから」といった考えです。否定的なことを言う声が頭の中に聞こえてきたら、必死で打ち消し、自分の子供全員を世話するとき実際に発する声にもっと寛容さと愛を込めるようにしました。

肯定的な考え方をするようにも努めました。「自分はよく

やっている」と考えるようにし、「静かな声で話しているし、どなっていないわ。その調子よ!」などと、自分を褒めるようにしたのです。

神に頼る

特に大変な日には、一日の終わりに、夫に祝福してもらいました。祝福の間、自分は神の娘であり、神はわたしのこともわたしに必要なものも御存じで、わたしの息子は神の息子だということを思い起こしました。ブラッドはまず神の息子であり、夫とわたしは、ブラッドを育てるために神と協力しているのです。神をパートナーとする者に与えられる手段を自分がすべて活用しているわけではないことに、わたしは気づきました。夫とわたしは役に立つ手段を探し、たくさん見つけていたのですが、いちばん大切な、祈りを忘れていました。

わたしはブラッドのために何ができるか、毎日祈るようにしました。ブラッドが感情を爆発させると、わたしは靈感を求めて短い祈りをささげてから対応しました。神が助けてくださると信じて息子のために靈感を求めると、どんな自分になれるか、息子のために何ができるかが少し見えてきました。わたしはアルマの言葉に従うように努力しました。「神の御手^みに使われる者とな〔る〕こと、これがわたしの誇り……である。」(アルマ 29:9)

変化はすぐに現れました。ブラッドのためになるアイデアや方法が次々に浮かんできたのです。家庭の夕べを手段として活用し、教える内容について祈りました。また、もっと目的意識を持って聖文を読むようにもなり、子育ての偉大なアドバイスがそこにあることに気づきました。希望と安心感で満たされるようになりました。

わたしは、神をパートナーとして夫とともに子供を育て、神から与えられた手段を活用しているのだという思いを行動に移していった

ところ、ますます神に頼るようになりました。わたしの子育ての知識は限られたものでしたが、愛にあふれた天の御父はすべて御存じで、わたしよりも深く息子を愛しておられるので、御父の助けを受ければさらに良い母親、強い母親になれることが分かりました。それに、今でも時々戸惑うことはありますが、どこに助けを求めればよいかをわたしは知っています。いつ果てるとも知れない試練はあるものの、永遠を見据えるならば、神は助けてくださいます。それが理解できるようになりました。

ささやかな瞬間に喜びを見いだす

つらいときには、ささやかな瞬間にじっくり喜びをかみしめるようになりました。このような瞬間は、わたしたちの頂く贈り物です。息子がわたしにキスしないではいられないときには、それに感謝します。息子が介助者なしでバスに乗るのを見たとき、祝福されてこんな聖句が心に浮かびました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約 84:88) わたしはブラッドが独りではないことを知りました。これからも決して独りではありません。

わたしたちは永遠の家族です。愛してくれる人たちの助けと、愛にあふれる天の御父の見守りのおかげで、わたしは日々頂く小さな贈り物に感謝し、味わうべき喜びと幸福を感じることができます。そして、こうした数々の小さな祝福と主の助けがあるので、どんなに時間がかかろうとも、わたしはなるべき人間になることができるのです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



ムリロが16歳でバプテスマを受けたとき、家族全員が反対しました。伝道の召しを受けたときには、両親は彼の教会用の服を捨て、伝道に出るのをやめさせました。ムリロはやがて家族を教会に導くのですが、自分が専任宣教師として奉仕しなかったことで、ずっとふさわしさに欠けると感じていました。

写真撮影、コディー・ベル

ムリロ・ヴィセンチ・レイチ・リベイロ

ブラジル、ゴイアニア

わたしにとって、若者なのに伝道に出ていないというのはつらいことでした。伝道に出た友人たちに対して劣等感を抱き、教会では孤独でした。わたしが伝道に出ないのは、ふさわしくないからだと思う人たちもいました。でも、わたしは信仰を固く持ち続けるように、できるだけ努力をしました。

それから何年もたったある日、ステークの再編成に訪れた七十人のジャイロ・マサガルディ長老と面接を受けました。長老は伝道について質問しました。

わたしは、「伝道には行きませんでした」と言うと、泣き出してしまいました。

長老は言いました。「ムリロ兄弟、後ろを向いてはいけません。前を向ってください。後ろを向く人は皆、後退し、前を向く人は皆、前進するからです。あなたは清いのですよ。」

まるで背負っていた6トンもの重荷が下りたようでした。

長老はわたしに妻を連れてもう一度来るように言いました。そして、わたしをステーキ会長に召したのです。

ムリロについては、オンラインの「リアホナ」ids.org/go/71738で詳しくお読みいただけます。







生活を支えるために
乗り合いタクシーの
運転手やセールスの仕事をして
基本的な必要を満たしました。

強い信仰以外は何もありませんでした

フィリピン、カガヤン・デ・オロ伝道部で奉仕した後、わたしは預言者や使徒の勧告に従い、神殿で結婚しようと決意しました。教会員ではない親戚や友人のほとんどが、それに何人かの教会員までもが、結婚は大学を卒業して良い仕事に就いてから考えるべきだと言いました。わたしが婚約したとき、わたしには、そのどちらもありませんでした。

不安でしたが、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）がイギリスへの伝道の召しを受けたときの話を思い出しました。ヒンクレー長老は、経済的な苦難や問題に悩みながら出発の準備をしていました。出発の直前に、父親が短い言葉を書いたカードを渡しました。「恐れることはない。ただ信じなさい。」（マルコ5：36）また、ビショップの言葉も思い出しました。「信仰を持ちなさい。神が必要なものを与えてくださいます。」こ

れらの言葉は、前進する勇気と力をわたしに与えてくれました。

わたしは何も持っていませんでしたが、愛する婚約者とフィリピン・マニラ神殿で結婚しました。間もなく、日曜日に勤務がある会社で働き始めました。安息日を聖く保ちたかったので、この仕事は長く続きませんでした。多くの人がなぜ仕事を辞めるのかと不思議に思いましたが、わたしは「信仰を持ちなさい。神が必要なものを与えてくださいます」と何回も自分に言い聞かせながら前進しました。

生活を支えるために乗り合いタクシーの運転手やセールスの仕事をして基本的な必要を満たし、最初の赤ちゃんが生まれる準備をしました。妻はわたしが家族の必要を満たそうとして疲れ切っているのを見て、学校に戻るべきだと言いました。しかし、仕事と教会の奉仕をしながら学生になるのは大変なことだと思いました。

確かに、それは大変なことでした。それでも、わたしたちは戒めを守れるように最善を尽くしました。経済的に苦しくなることは度々ありましたが、教会の永代教育基金の助けを得て、2番目の子供が生まれる前に大学を終えることができました。高校教師の仕事を見つけ、後にセミナー・インスティテュートコーディネーターとなりました。

預言者と教会指導者の勧告に従うことで、結婚が霊的な成長と成熟を促す素晴らしい機会となったことが分かりました。結婚と福音のおかげで、わたしは祝福されています。

どんなに困難な状況でも、恐れる必要はありません。わたしたちは最善を尽くし、この言葉を覚えておくだけでよいのです。「信仰を持ちなさい。神が必要なものを与えてくださいます。」■

リチャード・O・エスピノサ
（フィリピン、タルラク市）

流産の後の慰め

4 回目の妊娠が18週になるころ、目覚めると少量の出血に気がつきました。出血が止まらないので心配になり、病院の救急治療室に行くことにしました。

病院に向かう長時間の車中で、すべてがうまくいくようにと願って祈りました。最悪でも、医師が数日安静にするようにと診断すると思っていました。

入院してスタッフが幾つか検査をすると、赤ちゃんの心臓が動いていないことが分かりました。診断は「胎児死亡」でした。その時点で、医師にできることは何もなかったのです、わたしは退院となりました。

悲しみと恐ろしさを感じながら帰宅し、その夜は眠れませんでした。次の

朝ベッドから起きると、神殿の早朝エンダウメントのセッションに行くよう促しを感じました。

セッションの終わり近くになって、自分の薬指の結婚指輪と婚約指輪に目が留まりました。それらは曾祖母のもので、わたしの名前は彼女にちなんでつけられました。わたしが5歳のとき曾祖母は亡くなり、最近彼女の伝記を読んでいました。彼女も20代とき、流産を何回も経験したことを思い出しました。

朝からずっと悲しみの涙と恐ろしさをこらえていましたが、その瞬間、平安に包まれ、とても慰められました。曾祖母は人生において同じような試練を経験し、救い主に助けられたの

です。主がわたしのことも助けてくださるという確信を得ました。

「神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:12)

神殿に参入することで得られる平安、忠実な先祖の遺産、そして何よりも救い主イエス・キリストの贖いの犠牲に深く感謝しています。■

エミリー・ミラー (アメリカ合衆国, テキサス州)

結 婚指輪と婚約指輪は、曾祖母のものでした。

わたしは彼女が流産を何回も経験したことを思い出しました。

車に乗せ、福音を分かち合う

ある日曜日の朝、イギリスの田園地方を静かにのんびりとドライブしながら、わたしは教会に向かっていました。途中、道路のわきに年配の女性が見えました。止まって「乗りますか」と聞いてみるべきかどうか、とっさの判断を迫られました。

そして、止まるべきだと感じました。女性は名をメアリーといい、ちょうどその場所にきたところだったと話してくれました。彼女が数秒遅かったら、あるいはわたしが数秒早かったら、お互い会うことはなかったでしょう。完璧なタイミングだったのです。

行き先を聞いてみると、教会の近くでした。わたしは教会に行く途中だと説明してから、この教会について聞いたことがあるか尋ねてみました。彼

女は、救い主は信じているけれども、末日聖徒についてはほとんど知らないとのことでした。道すがら、わたしはメアリーに福音を紹介しました。

メアリーを降ろすとき、教会が終わった後でよければ、帰りもまた車で送ることができると伝えました。メアリーがそうしてほしいと言ったので、教会で待ち合わせることにしました。教会の中に入ると、わたしはさっそく宣教師を見つけて、新しい友人に渡したいのでモルモン書を1冊下さいと頼みました。後でメアリーが教会に着くと、会員たちが親切に迎え、証を分かち合ってくれました。

帰り道、わたしはメアリーに、モルモン書を読めばイエス・キリストについてもっと知ることができると話しま

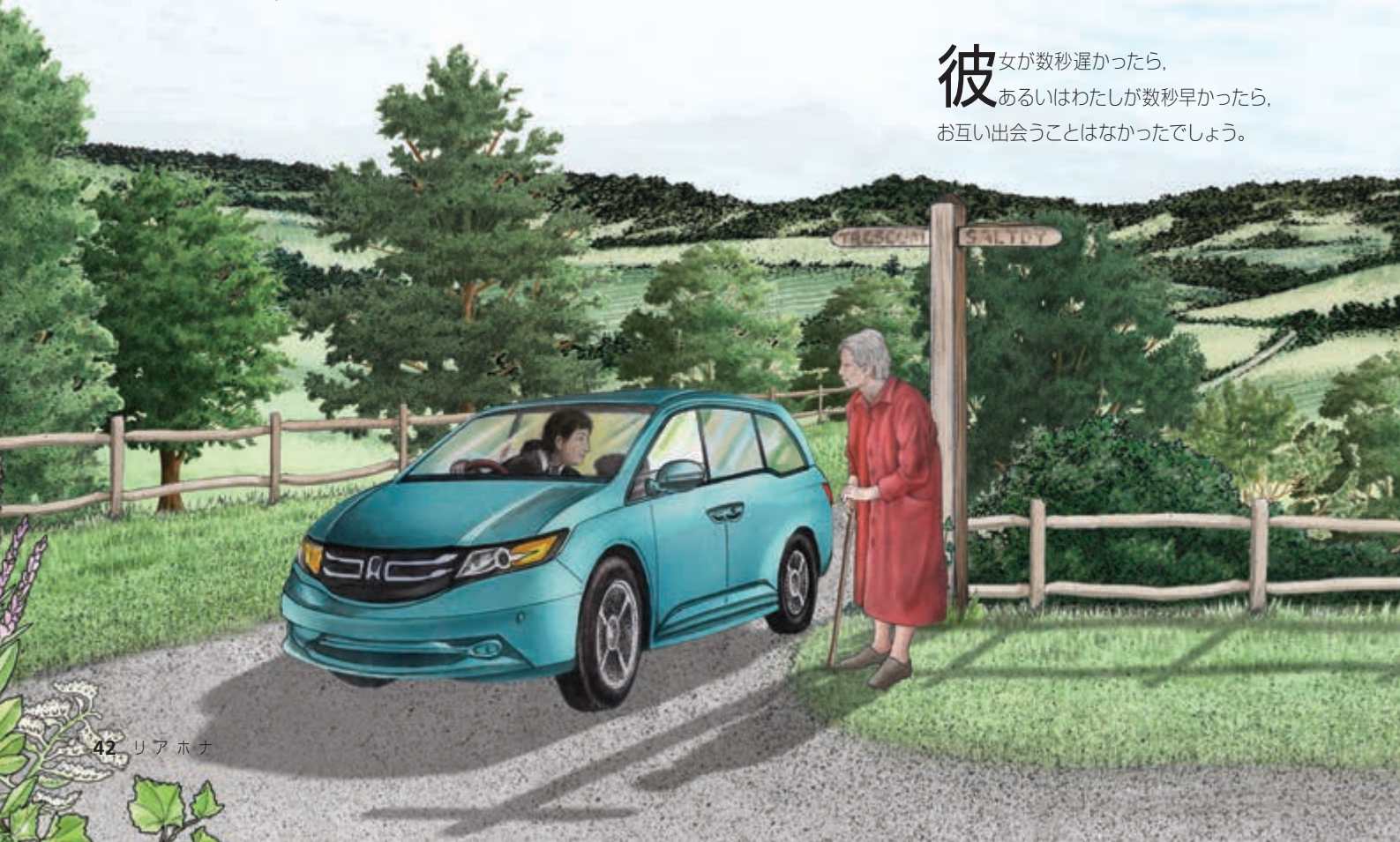
した。救い主がニーファイ人に姿を現された話が載っている箇所も伝えました。彼女が末日聖徒と接した時間はわずかでしたが、何かを感じ取ってくれたと確信しています。出会った場所でメアリーを降ろし、もう会うことはないだろうと思いました。

翌日、仕事の帰りに車を走らせていると、迂回のために普段は通らない道に行くことになりました。そして驚いたことに、もう一度メアリーを見かけたのです。メアリーもわたしを見て驚き、ほほえみました。わたしは喜んでまた彼女を車で送りました。主は彼女がわたしたちの信仰について聞くことができるよう、もう一度完璧なタイミングを準備してくださったのです。

それ以来、メアリーには会っていません。でもこの経験は、主が見守ってください、道を備えてくださるということを教えてくれました。福音を分かち合う機会を主が与えてくださったことに感謝しています。■

マイケル・カラン(イギリス、グロスター)

彼女が数秒遅かったら、
あるいはわたしが数秒早かったら、
お互い会うことはなかったでしょう。



自宅に明かりをもたらした天使

ある日曜の朝、訪問してもよいかとホームティーチャーに尋ねられました。最近離婚し、二人の小さな子供のシングルマザーとしての新しい生活に苦勞していたわたしは、訪問を感謝すると言いました。その当時、自分の状況に憤りを感じ、孤独に苦しんでいました。

次の週、二人の親切な兄弟がやって来ました。訪問すると、いつもの会話の後わたしの家族に短い福音のメッセージを分かち合ってくれました。

そして、「ネレイダ姉妹、何かできることはありませんか」と聞いたのです。

わたしは深く考えずに、2階に上がる階段の上の電球が切れていると伝えました。替えの電球はありましたが、交換するには高すぎて届かず、階

段ではしごを使うのも不安でした。それから、裏庭の明かりもつかないことを伝えました。

すぐに二人は立ち上がり、一人は車に行き、工具箱を持って戻って来ました。彼は身長が約1.9メートルで、階段を上がっていくと難なく電球を交換しました。その間に彼の同僚は裏庭に行き、配線が逆になっていたことに気づき、すぐに直してくれました。

何年にもわたるホームティーチャーの簡単な親切な行い、愛、献身、そして伝えてくれるすばらしいレッスンにどんなに感謝していることでしょうか。わたしのホームティーチャーは、家に明かりをともしてくれただけでなく、平安、希望、そしてどんな暗闇くらやみをも照らす福音という安全なよりどころもた

らしてくれました。■

ネレイダ・サンタフェ
(ベネズエラ、グラン・カラカス)



わたしを救ってくれた

唯一のもの

アナ・リサ・クラーク・ミュレンが
高山秀峰しゅうほうから聞き取った話

ゴルフは日本で人気のあるスポーツです。わたしは14歳のときにゴルフを始め、父と一緒にプレーするようになりました。初めから楽しく、やがて自分で練習するようになり、高校ではゴルフ部でプレーしました。仲良くなったチームメイトやコーチは、プロゴルファーになるというわたしの夢を実現するよう励ましてくれました。

わたしは何でも一生懸命やりました。試合だけでなく勉強にも熱心に取り組み、上位の成績で高校を卒業しました。

大学に入学してすぐ、ゴルフのコーチやチームメイトととても良い関係を築きました。彼らはわたしよりも上手だったので、それに追いつこうと最善を尽くしました。一部のチームメンバーが、わたしの変わった名前「秀峰」について意見を言いました。母方の韓国人の祖母が付けてくれた名前名前で、韓国語で「美しい山」を意味する、とわたしは話しました。それ以来、彼らのわたしに対する態度が変わった

思いがけない
友情のおかげで、
わたしの生活は暗闇から
光へと変わりました。

ように感じました。何世代にもわたり一部の日本人と韓国人の間に根強く残る敵対感情により関係が損なわれたのです。

彼らはわたしのことを「韓国人の子」と呼ぶようになり、わたしのせいで大学の名前に傷がつくと言いました。一緒にゴルフの練習をさせてもらえず、トイレ掃除をさせられました。

次第に、チームにすることがストレスになり、家族から離れていたわたしは、孤独を感じました。夢を諦めないでコーチやチームとの良い関係を取り戻そうと努力しましたが、2年後、辛

い仕打ちに耐え切れず家に戻りました。

わたしにとって暗闇くらやみにいるような時期でした。ストレスは心身に影響を及ぼし、2年の間に自尊心は失われました。プロゴルファーになる夢は消え、人生の方向性を見失い、怒りも感じていました。コーチ、チームメイト、両親——すべての人に対して怒りを感じていました。あまりに強い怒りを抱いていたので、自分の考えていることに怖くなることもありました。

友人もなく、人間不信に陥り、人と交わることができませんでした。半年間、ジムで運動する以外に外出はしませんでした。

この人生の暗い時期に、ジムでジャスティン・クリスティーという人と友達になりました。彼を初めて見たとき、外国人の交換留学生だと思ったので、彼に話しかけるのを躊躇ちゅうちよしていました。ところが、あるとき彼がジムでだれかに話しているところを目にして、彼が日本語を話していたので驚きました。わたしはまだ人を信じられませんでした。彼から一緒にトレーニングをしようと誘われました。彼はほかの



人たちとはどこかが違っていました。それが何なのか、当時は分かりませんでした。わたしは、彼といるときは心が穏やかでした。次第に、一緒にトレーニングするのを心待ちにするようになりました。友達として信頼できる人が見つかったのです。

数か月間一緒にトレーニングを重ねた後、ジャスティンは定期的に行っている食事会にわたしを招待してくれました。気が進みませんでしたが、何度も誘いを受け、とうとう行くことにしました。それは、リチャード・クラーク、コリーナ・クラーク夫妻宅で開かれていたヤングシングルアダルトの食事会でした。夫妻の家に入ると、クラーク兄弟は日本語で、クラーク姉妹は英語で、温かくあいさつをしてくれました。クラーク姉妹の言っていることは分かりませんでしたが、彼女に返事をしようと努力しました。そこにいた何人かは日本語を話さなかったですが、皆温かく友好的で、楽しいことが大好きな人たちでした。その場は笑いであふれていました。

わたしはほかのヤングシングルアダルトの活動にも参加するようになりました。それまで、人とそれほど楽しいことをしたことはありませんでした。わたしは、彼らがこんなにも親切で友好的なのはなぜなのだろうと不思議に思いました。

そのころ、ジャスティンはわたしに、人生の目標を聞いてきました。わたしは、自分の目標が変わり始めているこ

自分と 同じ状況にいる人を 助けようと 決めました。

とに気づいて驚きました。英語を勉強して話せるようになり、彼のように皆と仲良くなりたいと言いました。彼はわたしに、教会で無料の英会話のクラスが開かれていると教えてくれました。わたしは英会話に行き、宣教師に会いました。神について考えたことはありませんでしたが、宣教師の話の聞いた方がいいと思いました。宣教師は、福音の基礎を教えてくれ、ほぼ毎日電話をくれました。わたしは宣教師ととても仲良くなりました。まだそれほど友達がいなかったので、宣教師と友達になれてとてもうれしく思いました。

宣教師のレッスンに同席してくれた大勢の教会員と出会い、仲良くなりました。彼らはわたしに福音を教え、模範となってくれました。ジャスティンはわたしにモルモン書について教え、わたしが自分で読みたくなるように、モルモン書の中の物語を話して聞かせてくれました。真悟というきょうめんな別の友人は、わたしが教義を理解し

やすいように話をしてくれました。会話の最後には必ず証^{あかし}をしてくれました。

自分の信じるものと自分の居場所が見つかりました。バプテスマと確認を受けると、わたしは伝道に出ることを考え始めましたが、伝道のために2年間をささげることについて不安を抱いていました。伝道について大勢の人と話しました。特に、帰還宣教師の友達と話しました。よく考え、福音がわたしを救うことのできた唯一のものだということに気づきました。

神はすべてのものをわたしに与えてくださいました。夢、希望、友人、そして何よりも愛を下さいました。福音は、わたしを暗闇から光へと導いてくれました。■

筆者は日本の東京在住です。



模範となる

「わたしたち一人一人は、キリストの光を授かって地上に来ます。救い主の模範に倣い、主が生きられたように生き、主が教えられたように生きると

き、その光はわたしたちの内側で燃え、人々のために道を照らします。……

わたしたちの影響が及ぶ範囲内には、孤独な人、病気の人、落胆している人がいるはずで、わたしたちにはそのような人を助け、元気づける機会があります。」

トーマス・S・モンソン大管長
「模範となり、光となる」
『リアホナ』2015年11月号、86



どのように秀峰に福音を伝えたか

ジャスティン・クリスティー

ジムで秀峰と出会ったときに、彼は英語を学んでゴルフの交換留学プログラムに参加したいと話していました。わたしは教会で行われている英会話について話しましたが、参加できるまでには数週間かかりました。その間、一緒にトレーニングをしながら、福音やモルモン書、そして生活全般についてよく話をしました。

彼が出会った教会員の友情と模範が彼の注意を引き、福音について学ぶ助けとなりました。人を改心へと導くのは御霊です。わたしたちはただ、メッセージを届け、人々が自分で選ぶのを助ければよいのです。

以前は、福音を伝えると思うとストレスを感じました。でも、適切なときに口を開きさえすれば、伝道のお機会を得られると分かりました。わたしたちはただ教会の活動や集会にだれかを招待すればよいのです。わたしたちが心を開いていれば、福音を伝える機会はずっとあります。■

最も重要な役 を演じる

アニー・マコーミック・ボナー

わたしは演劇に情熱を注いできました。

ヤングアダルト時代、舞台の上で演じ、歌うことに打ち込みました。才能に恵まれ、プロの役者になりたいと望んでいました。きわめて難しい様々な役を勝ち取り、役者仲間の敬意を得ようと、常にプロとして振る舞いました。

あるとき、地元で最も影響力のあるディレクターから、オペレッタのオーディションをするから挑戦しないかと言われ、大喜びしました。そのショーは、地元で最も名高い会場で開催されるもので、友人のディレクターは主役にわたしを起用しようと考えているようでした。

まだ台本が来ていなかったのですが、オーディション前に熟読することはできませんでしたが、そのオペレッタは18世紀の哲学者によって書かれた小説を基にしたものでした。わたし

はこの小説を読み、ショーの音楽も聞き込みました。それは、並外れて美しく、難しい音楽でした。

オーディションはうまくいき、最も重要な役、つまり主役をもらえるという知らせが来るのを待つばかりでした。その役は非常に大きなチャンスだと確信していました。

興奮して雲の上を歩いている気分でした、台本が届くまでは。台本を読むと、高揚感はさっと消えました。小説と音楽はふさわしいものでしたが、台本は敬虔さを欠き、暗示的で不適切なト書きを含んでいました。この作品に関わるべきではないと分かり、とても落胆しました。

そして、突如板挟みに陥りました。演劇のエチケットとして、役者はいったん役を引き受けたら途中でやめないとされています。制作日程の都合上、配役の変更をする時間的余裕がないためです。今断れば、プロらしくないと思われるでしょう。劇団の信頼を失い、ディレクターを不快にさせ、今後ほかの場で演じる機会さえ失ってしまうかもしれないと不安になりました。

それは、
人生最大の役を
手に入れたばかりの
ときのことです。
胸が躍っていました、
台本をもらうまでは。

当然、自分を正当化する誘惑に駆られました。「今やめることはできない。それほど悪い台本ではない。ショーの良い部分が下品な部分をカバーしてくれる」という声が頭をよぎりました。しかし、聖なる御霊は常にわたしの心にとどまり、断固として、忍耐強く、揺らぐことなく、この劇から離れるべきだと合図を送っていただきました。

どうするべきかは分かっていました。震える手で電話を取り、ディレク

ターに電話をかけました。

ディレクターが電話に出ると、わたしは「もしもし」と言いました。「アニーです。」

「アニー！ショーを楽しみにしているよ。台本は受け取ったかい？」

「はい。それが……。」

涙があふれ出ました。何てプロらしくない！

わたしはすすり泣きながら、どうしてこのショーに出られないかをディレクターに何とか説明しました。そして、最悪の幕切れを想像しました。

すると、敬愛するディレクターは笑って、わたしの選択を尊重してくれました。始めはそのショーに残るよう勧めてきましたが、最後には折れました。わたしがこの作品に出ることを望まなくても、彼は引き続きわたしを敬愛すると言ってくれました。そして、台本をほかの人に渡さなくてはならないので、すぐに持って来てほしいとだけ言いました。わたしは電話を切って、泣いてしまったことを恥ずかしく思いましたが、ディレクターの愛情深い、理解のある返答に感謝しました。

涙をふいて台本を手にとると、車に飛び乗りました。エンジンをかけると、ラジオの音が聞こえてきました。地元のクラシック音楽局にセットされており、驚いたことに、そのオペレッタの序曲が流れてきました。それ以前にその曲をラジオで聞いたことは一度もありませんでした。

天の御父がわたしのためにその音楽を流してくださっているように感じ

ました。御父がわたしを愛していて、わたしの選択を承認したことをわたしに分かってほしいと思っておられたのです。電波に乗って流れてきた音楽は、神の優しい憐れみだったのです。わたしはその音楽を通して御父の愛を感じました。

引き続き大学で演劇の勉強をしましたが、ほかにも同じような状況に陥ったことが何度もありました。不適切な内容のために、ある共同プロジェクトを辞退せざるを得ないことも何度かありました。そういった状況は、簡単でもなければ心地よいものでもありませんでしたが、より円満になりました。以前の経験は、これらの出来事の備えだったのかもしれませんが。自分が何者か、そして何者になりたいのかをさらに理解する助けになったのかもしれませんが。

ウィリアム・シェイクスピアはこのように書いています。

「全世界が一つの舞台。
そこでは男女は問わぬ、人間は
すべて役者に過ぎない。
それぞれ出があり、引込みがあり。
しかも一人一人が生涯に
いろいろな役を演じ分ける。」¹

ほかのあらゆる役よりも重要な役が一つあることを学んでいます。それは、イエス・キリストの真の弟子という役どころです。仲間から拍手をもらうと心は躍り、満足を覚えます。しかし、大切なのは神の承認を得るこ

とです。主に従うようになると、最高のパフォーマンスができるようになります。■

筆者はアメリカ合衆国ワシントン州在住です。

注

1. ウィリアム・シェイクスピア『お気に召すまま』第二幕、第七場。新潮社版 福田恆存訳参照





一週間を通して
強くある



聖餐^{せいさん}を取った後、その週の間聖約を覚えていて、
主がどのように祝福してくださるかを青少年が話しています。

日 曜日の夜です。つまり明日は月曜日で、宿題、アルバイト、フットボールの練習、ピアノのレッスンなど、今週もやることがほんとうにたくさんあります。でも大丈夫、やるべきことすべてにうまく対処できます。どうすればよいか知りたいですか。

霊的な強さを味方にするのです。毎週日曜日に、聖餐を取って自分が交わした聖約を新たにします。そうするとき、イエス・キリストの御名^{み な}を受け、主を覚え、戒めを守るなら、いつも主の御霊^{みたま}がともにあると約束されています（教義と聖約 20：77、79 参照）。それは、今週どんなことが起ころうと、霊的に強められていることを感じるができるという意味です。

青少年に、聖餐についての経験とその週の間、聖約を覚えていてどのように強められるかを分かち合ってもらいました。彼らの話を読んでみてください。皆さんも似たような経験をしたことがあるかもしれません。

写真：JASON SHAW / GETTY IMAGES



いつも救い主を覚えていると、難しい試練に直面したとき勇気を出せます。高校3年の半ば、家族はアメリカ合衆国に戻りましたが、わたしはその学校で卒業するために一人でオーストラリアに残りました。学校の休みに家族に会いに行った後、オーストラリアに戻ると、非常に寂しく感じました。でも、すぐに自分は独りではないことに気がつきました。今までもそうではなかったし、これからもそうなることはありません。わたしが主に従おうと努めるかぎり、救い主の御霊はいつもともにあるからです。それが、そのとき受けた大きな慰めでした。

シャノン・S, 19歳 (オーストラリア, シドニー)



障がいのある女の子が学校にいました。ほとんどの人が障がいを理由に彼女をからかっていて、彼女を助けようとしたのは、友人とわたしだけでした。クラス中が一緒になって彼女をからかうような日もありました。どのように対応すればよいか、難しい状況でした。わたしはその場から立ち去りたくりましたが、彼女は神様の子供であることを思い出し、イエス様ならどのように彼女に接するかを考えることにしました。すると、聖霊の穏やかな影響を感じ、違いを生み出せることを思い出しました。救い主の模範に従うことにより助けを受け、すべてはうまくいくと分かりました。

バプテスマの聖約で、救い主のように行動すれば聖霊がいつもともいてくださると約束されています。聖霊の慰めと力を感じることができ感謝しています。

アレクシス・L, 13歳 (アメリカ合衆国, カンザス州)



聖餐の祈りを聞くと、バプテスマの聖約にある、自分がすべきことを行えば、御霊とともにいることができることを思い出します。御霊が近くにあれば、一週間を乗り切るのがすいぶん楽になります。例えば、学校の多くの友人が汚い言葉を使ったり、適切でない話し方をしたりします。聖約を思い出すと、聞こえたことを無視して、そのような話し方をやめるように仲間に良い影響を与えることさえできます。

ジェイコブ・B, 14歳 (アメリカ合衆国, コロラド州)



わたしにとってキリストの御名を受けるとは、主の御霊がいつもともにあるということと、正しいことを行う選びをしなければならないということを知っているという意味です。あるとき誕生日パーティーで、友人たちがお酒を飲んでいて、わたしにも勧めてきました。要らないと答えると、教会の友人の一人がやって来て、自分たちは宗教的な理由でお酒は飲まないことを伝えてくれました。救い主をいつも覚えていると、御霊が近くにあり、悪いことから遠ざけてくれます。

ミゲル・C, 16歳 (ブラジル, パラナ)

聖餐の間、以前はその週にしなければならないことや、学校のこと、友達について考えていました。でも、日曜学校のクラスと預言者のメッセージを通して、聖餐の意味を理解し始めました。今は、イエス・キリストの贖い^{かがな}について、つまり主がわたしたちのために命を犠牲にしてください、罪の代価を支払い、あらゆる苦しみを受けられたということについて考えています。そうすることで、毎日、主のようになろうと努め、主が示された愛を同じように示そうという動機が湧いてきます。ほかの人と福音を分かち合うことができます。神殿に参入するのに、また聖餐を受けるのにさらにふさわしくなるために、できることがあります。

アレッサンドラ・B, 17歳 (チリ, サンティアゴ)



自分はキリストの御名を受けると聖約していると知ること、主に従う義務があると感じますが、そうするのはいつも簡単なわけではありません。グループの活動で、話し相手がだれもいない子を見つけました。彼のところに行って話しかけるべきだと感じましたが、最初はそうしたくありませんでした。積極的に友達を作ろうと自分から行動する性格ではないからです。でも、キリストならどうなさるかと考え、新しい友達を作るための力を得ました。彼と話しているとき、質問して楽しく過ごせるよう御霊がささやいているのが分かりました。

**エバン・A, 16歳
(アメリカ合衆国, ユタ州)**



聖餐を取ると、平安な気持ちを感じ、生活においてどんなことが起きてても対処できるという確信となる思いで満たされます。去年の6月、大変な時期がありました。親友の一人が引っ越して、わたしはひどく落ち込み、自分の体形についてあり得ないような考えに取り付かれてしまいました。ある日曜日、聖餐を取ると、突然大きな平安に包まれ、わたしはこの上ない幸せを感じる事ができました。

オリビア・T, 14歳 (アメリカ合衆国, バージニア州)



聖餐を取れば、その週の間、霊的な後押しが得られます。天の御父と交わした聖約を思い起こさせて、一週間を通じて導いてくれます。イエス・キリストの犠牲について考えさせ、それによって次の週のための霊的な備えができます。

あるとき、ストレスやいら立ちを感じていましたが、聖餐を取って聖餐の賛美歌の歌詞を読むと、御霊に満たされました。自分のストレスを忘れ、救い主に焦点を当てることができました。

ブレット・B, 17歳 (アメリカ合衆国, コロラド州)





十二使徒定員会
ダリン・H・
オークス長老

あかし 証を得る方法

何の知識を得る場合でも最初の段階は、心から知りた**いと望む**ことです。次の段階は、霊的な知識の場合、**真剣に神に祈り求める**ことです。現代に与えられた啓示にはこうあります。「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。」(教義と聖約 42:61)

アルマは自分のしたことを次のように記しています。「見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であるのを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。」(アルマ 5:46)

たとえ心から望んでも、証はただで得られるものではなく、**行いが求められる**ことを覚えておかななくてはなりません。イエスは教えられました。「神

のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17)

証を得るもう一つの方法は、ほかの知識を得るのと比べ、**驚くべき方法**に思えるでしょう。**証を宣べることによって、証を得て、強められるのです。**ひざまずいて祈るよりも、立って証をする方が、効果的に得られる証もあると提案した人もいました。

自分自身の証は信仰の基盤となります。そのため、証を得、強め、保つために行う必要のある事柄は、生活における霊的な面で欠かせないことなのです。すでにお話した方法に加えて、**毎週聖餐を取る**必要があります(教義と聖約 59:9 参照)。そうすることで、「いつも御子の御霊を受け[る]」という貴い約束にふさわしくなるのです(教義と聖約 20:77)。もちろん、その御霊こそわたしたちの証の源です。■

このお話は2008年4月の総大会での説教を基に書かれました。



自分にどのように 当てはめましたか

わたしは教会についての証^{あかし}があります。靈感と献身と毎日聖文を読むことにより、それが与えられました。そして、自分の証を持ると、物事がまったく違って見えたり、聞こえたりすることに驚いています。

シャノン・ムリエル・M、
(アメリカ合衆国、コロラド州)

そこが知りたい

どうすればほかの人を
裁くことなく、
それでも罪を見過ごすこと
のないようにできますか。

わ たしたちは人々を赦す^{ゆる}ように、そして最終的な裁きは神に託すように命じられています（教義と聖約 64:9 – 11 参照）。しかしそれは罪を見過ごすということではありません。もし罪となるような行為を行っている人が周りにいれば、わたしたちは彼らの光となり、正しいことを擁護すべきです。これは少なくとも、罪の行いにかかわらないことや、疑わしい状況や人間関係を避けることによって、良い模範を示すことができることを意味しています。しかし、神の律法と、わたしたちがどのようにそれを守っているのかを知ってもらうために、人々の良くない行いを指摘するべきでしょうか。もしそうであれば、いつ、どのようにすればよいでしょうか。

その答えは、状況やそれにかかわっている人々との関係、また彼らの神の律法に対する知識の度合いによることでしょう。例えば、部屋に大勢いる顔見知り程度の人々に悔い改めるように言うよりも、家族や仲の良い友達と二人きりで話す方がよいでしょう。聖霊の導きを求めてください。聖霊は、愛と寛容、そして主の標準への確固とした決意のバランスを正しく保てるように、あなたの言葉や行いを導いてくださるでしょう。■



もしポルノグラフィーを見るのを
自分でやめられたとしても、
ビショップに話すべきでしょうか。

も しあなたがポルノグラフィーを見ているとしたら、「必要な助けを求めて下さい。この破壊的な習慣を悔い改め、捨てるために必要な措置を取ることができるよう、あなたの両親とビショップが助けてくれるでしょう。」（『若人の強さのために』 12）

もし自分でポルノグラフィーを見るのをやめたとしたら、尋ねるべき質問はビショップに話すことが「必要」かどうかではありません。ほんとうに尋ねるべきなのは、「どうしてビショップに話さないのか」という質問です。ビショップに話すことで損をすることは何也不会。ビショップは理解を示し、励ましを与えてくれることでしょう。そしてあなたが、自分の過去の罪を捨てるために努力したことを喜んでくれることでしょう。ビショップは、あなたが自分はふさわしいかどうかや、悔い改めが完全にできたかどうかについて、長く心に抱いてきた疑いを消し去れるように助けてくれます。そして、イエス・キリストと主の贖^{あがな}いの犠牲に対する信仰と信頼の思いを強めてくれます。同じ理由から、両親に話すことについても考えたほうがよいでしょう。■



末日聖徒であることは
開拓者であるということです。

開拓者としての あなた自身の旅

見せかけではなく、本物の

教会歴史部
アロン・L・ウェスト

幼い少年だったころ、わたしは時々有名なスポーツ選手のまねをしていました。飛べるふりをしたり、巨人のふりをしたりしました。自分は背も低く、飛べませんし、運動神経も標準並みでしたが、幸せでした。それでも、まねをすることは楽しいものでした。想像の世界の中であっても、自分とは違うものを経験するのが楽しかったのです。だから、多くの人々がまねをするのでしょう。

まねをすると言えば、わたしたち末日聖徒は開拓者の旅をするのが大好きです。開拓者の（ような）服を着て、開拓者の（ように）手車を引き、開拓者の食べ物（とはもちろん違いますが）を食べます。開拓者になったふりをするのに、大変な努力をします。でも、驚くことに、ほんとうはまねをする必要がないのです。わたしたちは、すでに開拓者なのですから。

トーマス・S・モンソン大管長はかつてこう言いました。「末日聖徒であるということは開拓者であるということです。なぜなら開拓者とは『後に続く人々のために先立って、道を備えたり切り開いたりする人』であると定義されているからです。』¹ モンソン大管長は自らの言葉と行いで、ほんとうの開拓者になる方法を教えています。

「わたしたちは究極の開拓者であられる救い主の足跡に倣って進みます。救い主はわたしたちの前を歩き、従うべき

道を示してくださいました。

『わたしに従ってきなさい』と主は招いておられます。』²
わたしに……従って……来なさい。これらのシンプルな言葉は、わたしたちがほんとうの開拓者になる助けとなります。

この言葉を、最近ステーキの開拓者の旅に参加した現代の開拓者たちの目から見
てみましょう。





テイラー・A



イーサン・G



ハーモニー・C

「わたしに従って来なさい」

来なさいという言葉は招きの言葉です。ある場所からほかの場所へ移動するように勧める言葉です。テイラー・Aはこの言葉の意味をよく知っています。

テイラーは、元気で明るく、御霊みたまにあふれる若い女性ですが、2年前は全然違ったと述べています。今は霊的にも物理的にも違う場所にいます。彼女は開拓者なのです。

テイラーはこう言っています。「わたしは開拓者として人生を歩んでいます。最近改宗したばかりだからです。わたしの旅路はほんとうにすばらしいものです。まるで新しい人生を歩んでいるようです。わたしたちはその旅路に一步踏み出すと、奇跡が起こるので。」

彼女は「来なさい」という招きを理解しているだけでなく、——その招きがどこから来るかを知っています。テイラーはこう述べています。「この世の中では、ほんとうに大切なものが忘れ去られていますよね。仕事やテクノロジーにばかり目が向けられていますが、わたしが最近大切だと思っていることは、キリストを最優先することです。開拓者たちがそうであったように、キリストを中心に生活する必要があります。

従うという言葉もまた、招きの言葉

です。開拓者の旅で、イーサン・Gはこの言葉に対する深い理解を得ました。「旅する中で、最高の気分じゃなかったときも、落ち込むような気持ちになったときもありました。」彼は続けます。「でも、開拓者たちもそう感じていたと気がつきました。」

イーサンは以前、初期の開拓者たちがなぜあれほどの犠牲を払うことができたのか不思議に思っていました。彼は言います。「自分だったら、諦めてしまっていたと思います。でも、それについて考えると、彼らはほんとうに救い主を愛していて、主を通して、状況が良くなるという希望を持っていたんだと思います。自分もそうしたいです。」

イーサンが開拓者の旅に参加する前、過去の開拓者たちについて学んだので、彼らに対する親しみを感じ、イエス・キリストに従おうとする彼らの信仰によって鼓舞されました。今イーサンはどうしているのでしょうか。専任宣教師として働くために、召しを受ける準備をしているところです。モンスン大管長の勧告に従い、イーサンは、ほかの人々に従うべき道を示す備えをしているのです。

どこに行けばいいのでしょうか。だれに従えばいいのでしょうか。救い

主はおっしゃっています。「わたしに従ってきなさい。」(ルカ18:22, 強調付加) ハーモニーが開拓者の旅に参加するために家を出たとき、自分の経験に主の手を見いだしました。主に従っているという確信が持てました。

彼女にとって、ステークの開拓者の旅への準備は、ほかの人のものとは違っていました。15歳のときに、珍しいタイプの皮膚がんがあると診断されたのです。ステークの開拓者の旅に参加できませんでした。「ほんとうに落ち込みました」と彼女は当時を振り返ります。

4年後に、また開拓者の旅が計画されたときには、がんは完治していました。しかし19歳になっていたので、参加できないと思っていました。すると、指導者として参加する召しを受けたのです。彼女はこう述べています。「それは、主がわたしたちのことも心の望みも御存じで、義にかなった善良な生活をしていれば、主が祝福してくださるという証あかしとなりました。」

ハーモニーは、わたしたちが試練に直面したときのために、次のようなアドバイスをしてくれました。「だれでも大変なときは、主に頼るようにお勧めします。神はいつもわたしたちのためにそばにいて、わたしたちを愛してく



**開拓者——
わたしたちの霊的な先祖**

「19世紀の開拓者の中に、わたしの先祖はいません。しかし、教会員となった当初から、わたしは大平原を横断した初期の開拓者に親しみを覚えていました。開拓者たちは、わたしにとって霊的な先祖なのです。またそれは教会のすべての会員にとっても言えることです。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長
「預言者の声により祝福を受け、
世界に広がる教会」
『リアホナ』2002年11月号、
10参照



ださり、倒れないように助けてくださいます。わたしたちが、ただ自分の腕を主の方に伸ばせば、主は、この開拓者としての旅をする間、助けてくださいます。」

皆さんは開拓者になることができます

開拓者の旅に参加したことがなかったとしても、皆さんは開拓者になることができます。ボンネットの帽子をかぶったり、手車を押ししたりする必要はないのです。初期の開拓者たちのように、ただイエス・キリストに従えばいいのです。そうすれば、モンソン大管長が述べた「後に続く人々のために先立って、道を備えたり切り開いたりする人」にあなたもなることができます。

もし開拓者の旅に参加する機会があれば、ぜひ楽しんでください！そして、旅の後で、手

車を置いていくときに、自分の開拓者としての証も一緒に置いていかないでください。証は持ち帰ってください。

あなたは、本物の、現代の開拓者なので、究極の開拓者である救い主に導いていただくなら、あなたは必ず成功することができます。■

注

1. トーマス・S・モンソン「先祖の信仰に忠実に」『リアホナ』2016年7月号、4；The Compact Edition of the Oxford English Dictionary (1971年)、“pioneer”の項からの引用
2. トーマス・S・モンソン「先祖の信仰に忠実に」4-5

テイラー、イーサン、ハーモニーや、ほかの現代の開拓者たちに会うことができます。lds.org/go/pioneer717 にアクセスしてビデオを見てみましょう。

lds.org/go/pioneer717 で開拓者の物語について読むことができます。



マノンに贈る 歌

もともとはその夜の余興となるはずでしたが、
一人の若い女性に対してたくさんの愛が注がれる機会となりました。

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

若い女性たちは心待ちにしていました。実のところ、フランス南部にあるそのワード全体が楽しみにしていました。一致を図るために、指導者たちはディナーと余興を盛り込んだワードの交流会を計画しました。ビーハイブやマイアメイド、そしてローレルの活動で、すでに歌やダンスを学んできているのを知って、指導者たちはその交流会の余興を若い女性に依頼しました。

そこでワードの若い女性たちは、一人を除いて全員が一生懸命に練習を始めました。マノンの参加は難しいだろうと思われました。これまで2年以上がんの治療を受けてきていたからです。

それでも、16歳のマノン・Cはできるかぎり集会や活動に参加し、つらい状況にあってもいつも明るい笑顔を絶やすことはありませんでした。しかし、化学療法を受けている間は、弱っていたため、ただ休むことしかできませんでした。ワードの会員たちは、彼女のために何度も断食をして祈りました。だれもマノンが踊りや練習に参加するとは思っていま

せんでした。

それでもディナーには参加できそうでした。それなら、マノンのための夕べにはどうでしょうか。

ささげられた夕べ

すぐにみんながそのアイデアに賛成しました。

「マノンにワードのみんなからの愛とサポートを感じてもらいたかったんです。」16歳のエマ・Sはそう言って続けます。「わたしたちのワードがもっと一致するために、ワードのみんなが協力してマノンに対する愛を示すこと以上に良い方法があるでしょうか。」

ワード全体が準備に参加しました。各家族はディナーのために食べ物を持ち寄る割り当てを受け、扶助協会は若い女性のために衣装を作り、ヤングアダルトはリハーサルと本番の演技のために、技術的なサポート（照明や音響、背景として映す動画）を行い、神権者たちはテーブルや椅子を設置しました。

これらすべての準備は、広い地域に散らばっているワードの会員たちによってなされたのです。16歳のアイオラ・Vは



左から：歌を作曲したエマ、パフォーマンスをした若い女性たち、スペシャルゲストとなったマノン、そして手伝ってくれた青少年と指導者たち全員

こう述べています。「ワードの青少年たちは、心はとても近くに感じていましたが、遠く離れて住んでいます。みんな町のあちこちに散らばって住んでいて学校では会えないので、だれも取り残されることがないようにみんなが意識しました。」

15歳のインカ・Sはこう話しています。「携帯電話のおかげで、いつも連絡を取り合うことができました。お互いにそれぞれの経験を分かち合うことによって教え合いました。信頼し合うことができると分かっていたし、お互いに良い模範を示せるように努めました。」若い女性たちは、もともとできるかぎりいつも一緒にいるのが好きでしたが、ディナーショーのためのリハーサルを重ねることが、友情を育むさらに良い機会となったことに気がつきました。

インカはこう説明しています。「リハーサルを始める前、わたしはとても恥ずかしがり屋でした。間違えるのが怖かったです。でもみんなと一緒に踊ると、恥ずかしさを忘れることができました。ワードのみんなに、自分たちがどれほど頑張ったかを見てもらおうときだったのです。」

マノンも、謙虚でつましやかにこう回想しています。「みんなからディナーショーのことについて、またわたしがスペシャルゲストだと知らされたときは、わたしのためにそこまでしなくても、と内心思いました。それでも、参加するのはとても楽しみでした。」

愛とサポートの舞台

間もなくその日がやって来て、マノンに愛とサポートを示すのに、完璧な機会となりました。「もちろん、食事もとてもおいしかったです。」アイオラは言います。「ここはフランスですから！」

そして、フランス語で「スペクタクル」と名付けられた余興はその名前のおりになりました。ゲームや歌の発表、ダンスによって、聴衆は沸きました。そして若い女性たちが一体となった合唱が、ショーのハイライトを飾りました。彼女たちはマノンに歌をささげたのです。エマが自分で作詞作曲した歌です。サビの部分の歌詞に、みんながマノンに感じてもらいたいと願った、愛やサポートの気持ちが込められていました。

諦めないで

わたしたちはあなたを信じているから

自分がだれなのかを忘れないで

わたしたちはあなたを信じているから

若い女性たちがその歌を歌っているとき、まるでワードの全員が一緒に歌っているかのようにでした。少なくとも心の中で全員が歌っていました。エマのシンプルな歌は、あらゆる場所にいる末日聖徒の心に響く、まだ歌われたことのない歌に変わりました。勇気と思いやり、家族や友人、一致と信仰と希望、そして天に届く終わりのない祈りが込められた賛歌となったのです。

指導者たちがこの活動を計画した目的はワードの一致を図るためでした。マノンのためにこの夕べをささげたことによって、その目標を達成できただけでなく、マノンと彼女の家族への絶え間ないサポートと、神のすべての子供が大切な存在であることを、全員が感じることができました。アイオラはこう話します。「教会の目的はわたしたちが天の御父とイエス・キリストに近づけるように助けることです。御^お二^{ふた}方がわたしたちを愛しておられて、わたしたちは決して独りではないことを知っています。」■

より高く登る

「^みたまは常にわたしたちがより良い者となり、より高く登れるように叱咤^し激励されます。」

七十人 ラリー・R・ローレンス長老, 2015年10月総大会



シオンへの道

ジェシカ・ラーセン

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

1862年6月2日、ミズーリ州リッチモンド

「メアリー、何が見える？」病気でねているメアリーのママが、やさしく話しかけました。

メアリーはまどの外をながめながら「戦争が近づいてきているみたい」と答えました。アメリカ南北戦争が、わずか数キロ先で行われていたのです。朝から、鉄砲の音が鳴りひびいていました。メアリーは、ママ母の方を向きました。「ごめんなさい。お医者さんをよびに行きたいけれど、家を出るのは無理みたい。」

「こっちに来てちょうだい。」メアリーは、ベッドのかたわらにすわって、ママ母の手を取りました。「お父さんはまだ病気だけれど、あなたは家族をシオンに連れて行かなければならないわ。きょうだいたちと双子を連れてね。ロッキー山脈に着くまで、お父さんを休ませないでほしいの。約束してちょうだい。」

メアリーは家族がどれほどソルトレーク・シティーに行きたいと思っているか知っていました。福音を聞いてバプテスマを受けた後、家族は、シオンの聖徒たちに加わるためにイギリスを出てきたのでした。でも、そんなことができるのでしょうか。メアリーは静かに椅子にすわっているお父さんを見ました。3年前、お父さんはひどいのうこうそくを起こして、体の左側がまひしていました。

メアリーは深く息をすいこむと、「約束するわ」と、ささやくように言いました。

それを最後に、間もなくママ母は目をとじ、なくなりました。

それから少したったある日の朝、メアリーはお父さんにその約束のことを話すことにしました。「わたしはまだ14才だけれど、家族をシオンに連れて行かなければならないの。」双子たちが起きた音が聞こえました。「朝御飯を作り始めないといけないわ。でも、考えておいてね、お父さん。」

2、3日して、お父さんがメアリーの名前をよびました。「すべてじゅんぴができたよ」とお父さんが言いました。のうこうそくのために、はっきりとは話せませんでした。「馬車と牛と必要な物を買えるように、土地と炭鉱を売ったよ。馬

車隊がもうすぐ西部に向けて出発するそうだ。末日聖徒の人たちではないが、アイオワまでは一緒に行けるだろう。そこまで行ったら、ソルトレーク盆地に向かう末日聖徒たちの隊に加わることができるだろう。」

メアリーはお父さんにだきつきました。「ありがとう、お父さん。」もうすぐシオンに行けるのです!

メアリーが家族の旅のじゅんぴを手伝っているうちに、あつという間に数日がすぎていきました。「きっと何もかもうまくいくわ。すぐにシオンに行けるわ。」メアリーは自分に言い聞かせました。



でも、お父さんが病気になるてしまい、口の片側が下がってしまつたのを見て、またのうこうそくが起こつたのではないかと心配になりました。

「父は病気で旅はできません。具合が良くなるまであと2、3日必要です」と馬車隊の隊長に話しましたが、

「待つことはできない」とびしゃりと言われてしまいました。でも、かれはメアリーの顔を見ると、声を和らげて、「お父さんが旅ができるようになるまでここにいて、後からわたしたちに追いつけばいい」と言ってくれました。ほかに方法がなかつたので、メアリーはそうすることにしました。

1週間後、メアリーはまた家族に旅に出るじゅんびをさせました。「双子とサラは牛に乗せて、お父さんは馬車に乗ってもらつて、ジャクソンは牛を引くのを手伝つてね。」メアリーは9才の弟、ジャクソンに言いました。

「こわいよ」とサラがか細い声で言いました。サラはまだ6才で、牛の大きな背中に乗ると小さく見えました。4才の双子は目を大きく見開いてメアリーを見つめました。

「楽しんで、隊に追いつきましょうよ！」メアリーは無理やり元氣を出して言いました。

ワンラス家族は、何キロも、何日も旅を続けました。よう



やく、メアリーも真実をみとめなければなりませんでした。
馬車隊は待っていてはくれなかったのです。メアリーと
家族は自分たちの家族だけでシオンまで行かなければなら
ないのです。

1863年、ネブラスカ州プラット川

「はい、どうどう！」メアリーが手綱を引くと、牛は歩みを
ゆるめました。「みんな、大丈夫？」牛の背中に乗っている
3人のおさないきょうだいたちを見ると、3人はうなずきまし
プラット川が目の前に広がっていました。横幅は広く、ど
ろでにごっていました。「今度はどうする？」弟のジャクソン
が聞きました。ジャクソンはまだ9才でしたが、メアリーが
牛を引くのを手伝っていました。お父さんはのうこうそくの
ため、まだ具合が悪く、馬車の後ろに横になっていました。

「川をわたる必要はないわ。でも、川にそって行けばいい
のよ」とメアリーは答えました。シオンまでの道
はありませんでしたが、西にのびている川
にそって行けば、着くはずですよ。「行
くわよ！」

メアリーは、モルモンの開拓者たちが、プラット川の反対
側を旅していることを知らなかったのです。ちがう道を通っ
ていたのです。川をわたらなかつたために、インディアン
の領地に入って行きました。その後、旅を終えるまで、ほ
かの馬車は1台も見ませんでした。

ただ旅を続けました。何週間もたったとき、土ぼこりがこ
ちらに近づいてくるのが見えました。「どうどう。」メアリー
は、牛たちと自分に声をかけました。「どうどう。」

まい上がっていた土ぼこりが落ちてくると、馬に乗った数
人のインディアンがすがたが見えました。その中の一人が、
メアリーたちの馬車の後ろに近づいて来ました。そこ
には、お父さんが横になっていました。

馬に乗った男の人はやさしい目をしていました。お父
さんを指さして、「病気なのかい？」と聞いたので、

「はい」とメアリーはささやくように答えました。男の
人が自分の言葉で何かをさげふと、男の人たちは来たとき
と同じように急いでどこかに行っていました。

メアリーは空の太陽を見て、「ここで止まりま
しょう」と、ジャクソンに言いました。



メアリーはサラと双子を牛からおろしました。

「メアリー、来て見て！」ジャクソンが言いました。あのやさしい目をした男の人が馬に乗って近づいてきました。両手には何か重そうなものを持っていました。

「野生のカモとウサギだよ。君にあげよう。」メアリーは何も言えず、男の人がメアリーに持たせてくれた肉をただ見つめました。もう一度うなずくと、男の人はたそがれの中を去って行きました。

「食べ物よ！」メアリーはさげびました。「お肉よ！」男の人がくれたおくり物は、ほんとうにきせきでした。

旅の途中でさらにたくさんのきせきが起きました。バッファローのむれが近くまで来ましたが、メアリーたちが乗っていた馬車の両側に分かれてくれました。土嵐で双子の一人が川に落ちてしまったときも、メアリーはすくうことができました。

でも、旅はきびしいものでした。日に日に、馬車はぼろぼろになり、牛がつかれていくのが見て取れました。地面は急で、ごつごつした岩ばかりでした。山をこえるのは大変なことでした。でも、メアリーと家族は前に進み続けました。

高い山のてっぺんから下りてきたとき、馬車に乗った男

の人がこちらに向かってやって来るのが見えました。

「あの男の人から、ユタのリーハイまでの行き方を教えてもらえるかもしれないわ。」メアリーはジャクソンに言いました。そこにはおじさんが住んでいたのです。

その男の人に、ここはどこかと聞くと、「ここはエコーキャニオンだ。ソルトレーク盆地までそう遠くはないよ」と答えてくれました。「でも、隊のほかの人たちはどこにいるんだい？」

すべてを話すと、男の人はおどろきながら話を聞いてくれました。「君たちだけで1,600キロの道のりを旅して来たのかい？」男の人は感心して首をふりました。「君は何て勇かな女の子なんだ。リーハイまでの道を教えてあげよう。もうすぐそこだよ。」

「シオンはもうすぐそこ。」男の人が土の上に簡単な地図をかいてくれるのを見ながら、メアリーはそうつぶやきました。もうすぐシオン。「きっと何とかたどり着けると思うわ。」

メアリーと家族はユタ州のリーハイに着きました。彼女は後に結婚して、大家族をきずきました。彼女の信仰と勇気のもはんは多くの人を祝福しました。■

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国テキサス州に住んでいます。



預言者のために 断食する

シリオティはキンボール大管長が大好きでした。
そしてキンボール大管長に元気になってほしいとおもっていました。

レベッカ・J・カールソン

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「たましいを養い、心を満たし、この断食を祝福してください」(『賛美歌』[英文] 138 番)

このお話は1981年、トンガで起こった出来事をもとに書かれています。

シリオティは黄色いパイアヤや、よくうれてピンク色になったマンゴーがなっている木の横を通って、学校から家に帰っていました。果物を見たとき、自分がどれほどおなかですいているかを思い出しました。そして、今日がどんなに特別な日かも思い出しました。今日はシリオティのいるトンガステーキの会員全員で、預言者スベンサー・W・キンボール大管長のために断食をしていました。預言者は病気で手術が必要だったのです。今夜、ステーキの会員全員が一緒に集まっているので、断食を終えることになっていました。

シリオティが家についたとき、「ウム」という地面をほって作ったオープンで調理している食べ物のおいがしました。おなかゲーゲーになりました。シリオティは、自分が断食できる年になったことをうれしくおもっていました。でも、学校のある日に断食するのは、日曜日に断食するよりもずっと大変でした。

シリオティは、どれほどおなかですいているかをわすれようと、たきぎを見つめたり、家の庭にしがっていたパンノキの落ち葉をそうじしたりしました。

「お水をほんの少し飲むくらいだったら、天のお父





様は分かってくさるわ。」家の手伝いの後で手を洗いなが
ら、シリオティは考えました。でも、自分がどれほどキンボー
ル大管長を愛しているかを考えました。もう一度元気になっ
てほしいと思っていたので、やっぱり待とうと決めました。

シリオティは玄関先のポーチにすわって、お母さんのひざ
の上に頭をのせました。とてもつかれていたのです。

「必要なら、もう断食を終わってもいいわよ」とお母さん
が言いました。

「でも、わたしは断食したいの。きっとできるわ」とシリ
オティは言いました。

お父さんが仕事から帰ると、家族みんなが手伝って、「ウ
ム」のふたを開けました。木の葉に包んだ豚肉や、魚、ココ
ナッツミルクに入れて焼いたパンキを取り出しました。それ

から食べ物をぬの
で包むと、それを持っ
て通りに出てバスを
待ちました。

通りでは他の家族
にも会いました。み
んな料理を持ってい
ました。みんな笑顔
で話しながら、一緒
にバスに乗りました。
シリオティはお母さ

んのとなりにす
わりました。バ
スにゆられなが
ら、食べ物のお
いしいにおいを
かぎました。

教会堂に着い
たときには、もう
辺りは暗くなっ
ていました。中に入

り、シリオティは両親や自分のきょうだいたち、そして何百
人という末日聖徒イエス・キリスト教会の会員とともにひざ
まずきました。

みんなでのる間、シリオティは心の中で「キンボール大
管長がまた元気になりますように」といのりました。その部
屋にいた全員が同じことをいのっているど知っていました。
心の中に平安な気持ちがして、キンボール大管長は元気に
なると教えてくれました。

目を開けると、周りの人はみんななみだを流していました。
全員が断食し、シリオティもみんなと一緒に断食をしたの
でした。大変だったけれど、やりとげたのです！

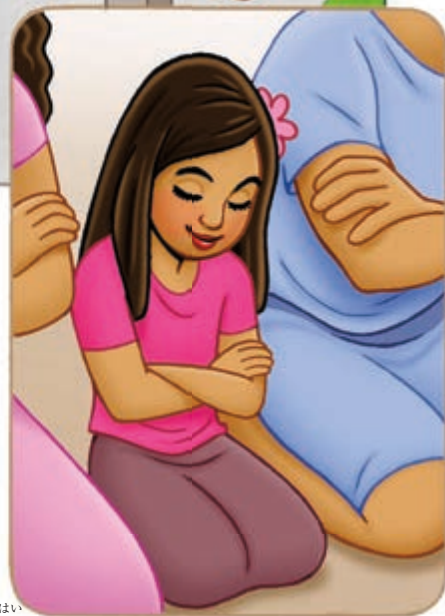
キンボール大管長の手術は成功し、その後さらに4年間にわたって
預言者として奉仕しました。■

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ハワイ州に住んでいます。

わたしたちはなぜ断食し、いのるのでしょうか？

「断食といのりは一緒にします。信仰
をもって断食して、いのりなら、いのり
の答えと主からの祝福をもっと受けや
すくなります。」

『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動
のガイド』80





「自分が断食を始められる年齢になったことは、どのように分かりますか。」



断食日曜日にはふつう、2食を食べたり飲んだりせずにごします。また、その分のお金を、必要とする人々を助けるためにささげます。それは「断食献金」とよばれます。断食をしているとき、自分が受けている祝福を思い返したり、人々のためにいのったり、天のお父様を身近に感じたりすることができます。あなたや両親が、あなたにはじゅんぴができています。感じたら、断食を始めることができます。健康の問題があるために断食できなくても、ほかの人が断食している間、いのり、せいをを感じることはできます。



人々を祝福する助けをしたいと思います。みたまを感じたいと思ったりしたとき、断食を始めるのは良いことです。バプテスマを受けた後は、断食を始めるのに良い時期です。

エディー・O, 9才
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)



断食したいと思ったとき、自分はもう断食を始められる年になったことが分かりました。そして、せいがわたしは正しいことをしていると教えてくれました。断食を始めたときは、少しずつ進めました。最初は1食だけ断食して、次に2食を断食してみました。

アン・D, 9才 (アメリカ合衆国, ネバダ州)



断食を始めるのにふさわしいときだという気持ちをせいがあててくださるので、自分が断食を始められる年齢になったかどうか分かります。その気持ちが正しいかどうか、お父さんやお母さんに聞きます。

ブルックリン・R, 7才
(ニュージーランド, オークランド)



自分がいつ断食を始めるべきかを知るために、天のお父様にいのりすることができます。天のお父様がいのりにこたえてくださることを知っています。

リアム・P, 7才 (アメリカ合衆国, ユタ州)

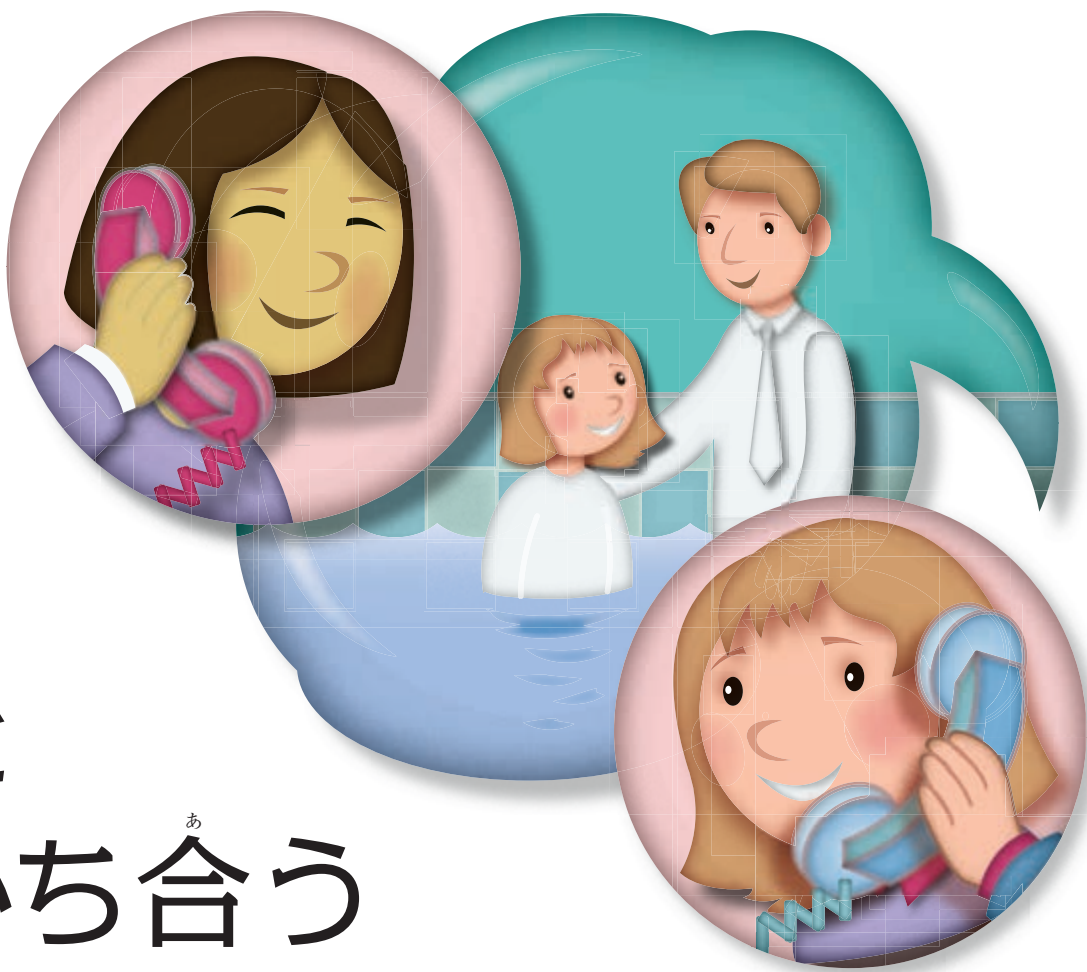


バプテスマを受けたら、断食を始めるじゅんぴができたと感じると思います。天のお父様にいのり、助けを求めたり、いつ、どのように断食を始めればよいかを聞いたりすることができます。

ブライアン・K, 7才 (アメリカ合衆国, ワシントン州)



しちじゅうにん
七十人
ラリー・S・
ケーチャー長老



ひかり
光を
わ
分かち合う

わたしが知っている二人の女の子が、福音を分かち合ううえで見せてくれた、光りかがやくようなもはんについて、みなさんにお伝えしたいと思います。むすめのネリーがもうすぐ8才になるとき、わたしたち家族はスイスに住んでいました。ネリーはバプテスマを受けるのを楽しみにしていました。誕生日をむかえる少し前に、友達の子ナをまねいて、一緒に家庭の夕べを開きました。ティナはその前から宣教師のレッスンを受けていました。でも、バプテスマをほんとうに受けたいかどうか分かりませんでした。

レッスンの後、わたしたちはティナにいのりをつけてくれるようにお願いしました。ティナはあまり英語が話せなかったの、中国語でいのりました。言葉は分かりませんでした、ティナがいのりしたとき、わたしたちはみたまを感じました。

そのばん、ネリーが、自分とティナと二人で同じ日にバプテスマを受けられないかと聞きました。そのことについてティナがどう思うかは分かりませんでした、ネリーが電話して聞いてみることにみんなが賛成しました。おどろいたことに、ティナは受けたいと言ったのです！

ネリーとティナはその週末にバプテスマを受けました。後

でティナはすばらしい話をしてくれました。わたしたちの家庭の夕べでいのりしたときのことでした。ティナはいのりの中で、自分がバプテスマを受けるべきか教えてくださいと天のお父様をお願いしたそうです。そのばんネリーが電話したとき、ティナは天のお父様が自分のいのりを聞いてくださったと分かったのです。

友達のジャスミンも、わたしたちにとってすばらしいもはんです。ジャスミンは12才でした。わたしたちは、中東に住んでいたときにジャスミンの家族と良い友達になりました。ジャスミンの国では、教会員が福音についてほかの人と話してはいけないことになっています。法律に反するからです。でも、ジャスミンはイエスがされたことをすることによって、福音を分かち合おうと決心しました。愛と親切を人々にしめすことができると思ったのです。ジャスミンはどこに行っても、何をしても、イエスのようになろうと努力しました。人々に、光りかがやくすばらしいもはんをしめました。

ネリーとジャスミンはわたしたちに、イエス・キリストについて人々に伝えるもはんになる方法を教えてください。何才でも、どこに住んでいても、これができるのです。■

魔法の
さいふ



アマンダ・ウォーターズ

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「選ぼう 選ぼう 正義の道」(『子供の歌集』82-83)

「あなたがオニよ。」マンディーはそう言って、弟をさわる
「あ」と、泳いでにげました。マンディーの家族は、新しい
家に引っこすことができるまで、ホテルに住んでいました。
お昼にラビオリ(四角い形の小さな pasta)を電子レンジ
で温めて食べるのは楽しいことでした。そしてほとんど毎
日に、ホテルのプールで泳ぐこともできました。

でも、ホテル暮らしにはあまりよくないこともありました。
マンディーたちの部屋のすぐ下がホテルのマネージャーのオ
フィスで、マネージャーは、マンディーたちのことをうるさすぎ
ると思っていました。「頭の上のゾウのむれのようなうるさ
い音を聞きながら、どうやって部屋をかせるというんです
か」とお父さんに聞いてきました。

お昼ごはんの後、マンディーの弟のアーロンがベッドから
ゆかにドスンと飛び下りました。マンディーはびくっとして、
お母さんを見ました。

「ジャンプはだめよ。つま先立ちで歩いてね」とお母さん
が言いました。

でも、もう後の祭りでした。電話が鳴ったのです。

「あーあ。」マンディーは思いました。

電話に出て、マネージャーにあやまるお母さんの声が聞
こえました。

お母さんは電話を切ると、かたをがっくり落としました。
「ねえエドワード、マンディー、お母さんはアーロンとエミリー
をお昼寝させないといけないわ」と言いました。「クリス
ティンとダニエルを散歩に連れて行ってもらえるかしら？」

ホテルの駐車場を横切ろうとすると、マンディーは地面に
小さくて茶色い物が落ちているのを見つけました。

それはおさいふでした。中にはお金が入っていました。

「見て、エドワード！」マンディーはそう言って、おさいふを
高く持ち上げました。

「これをすぐにマネージャーのオフィスに持って行かな
きゃ」とエドワードが言いました。

マンディーは、胃がきゅっとなるのを感じました。なぜ今
すぐに持って行かなければならないのでしょうか。お母さん
かお父さんが後で返すことはできないのでしょうか。

でも、マンディーは正しいことは何かを知っていました。

4人はオフィスのドアを開けると、おどおどしながら中
に入りました。マネージャーはいやそうな顔をしました。「あ
の、駐車場でこのおさいふを見つけたんです」と言いなが
ら、マンディーはふるえる手でおさいふをカウンターの上に
お置きました。

カウンターの所に立っていた男の人がこちらを見て、「わた
しのさいふだ」と言いました。男の人は急いでおさいふの
なか身を見ました。「全部そのままだ。ありがとう、君たち。」

マンディーがマネージャーの方を見ると、不機嫌な顔では
なくなり、目がかがやいていました。

4人がオフィスを出ると、ダニエルが聞きました。「あ
れって、おさいふの魔法？」

「何で魔法だと思うんだい？」エドワードがたずねました。

「だって、いやな顔をしていた人が、喜んでくれたから。」

エドワードは首を横にふりました。「おさいふの魔法じゃ
ないよ。ぼくたちが正しいことをしたから、喜んでくれたん
だよ。」

マンディーは特別な気持ちを感じました。正義を選
ぶと、人をそれほど幸せにするものだと知りませんでした。

数日後、マンディーとお父さんは、1週間のホテル代をは
らいにきました。マネージャーはマンディーにほほえみか
けてくれました。おさいふを見つけてからは、たった1度し
か電話をかけてきませんでした。それも、正直でいてくれて
ありがとうという電話でした。マンディーは、新しい友達が
できたように感じました。

「正義を選ぶって、ほんとうに魔法みたいだわ」とマン
ディーは思いました。お別れに手をふると、マネージャーも
手をふり返してくれました。「それに、そんなにいやな人じゃ
ないわ。」

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国ネバダ州に住んでいます。



正直であるということ

あ
る日の昼休みに、だ
れかが25セント硬
貨を落としました。ぼくは
それを拾って、そのまま自
分の物にしてしまおうかな

とも思いましたが、思い直して先生にわた
しました。正義を選んだので、良い気持ち
がしました。自分のではない物を見つけて、
それが気に入っても、自分の物にはしません。
それはぬすむことになってしまうからです。
タイラー・B、7才(アメリカ合衆国、オレゴン州)



十二使徒定員会
M・ラッセル・
バラード長老

家族評議会とは何ですか

家族評議会は、1週間のうち何曜日にも開くことのできる集会です。
あなたとお父さんかお母さんのどちらかの二人でも開けますし、家族全員でも開けます。
家族評議会では……



電子機器の電源を切って、おたがいの顔を見ながら、おたがいの話をよく聞きます。

両親に、自分の心配事や不安なことについても話すことができます。



きょうだいが大変なときに助けてあげられます。



目標を立てて、書き出します。

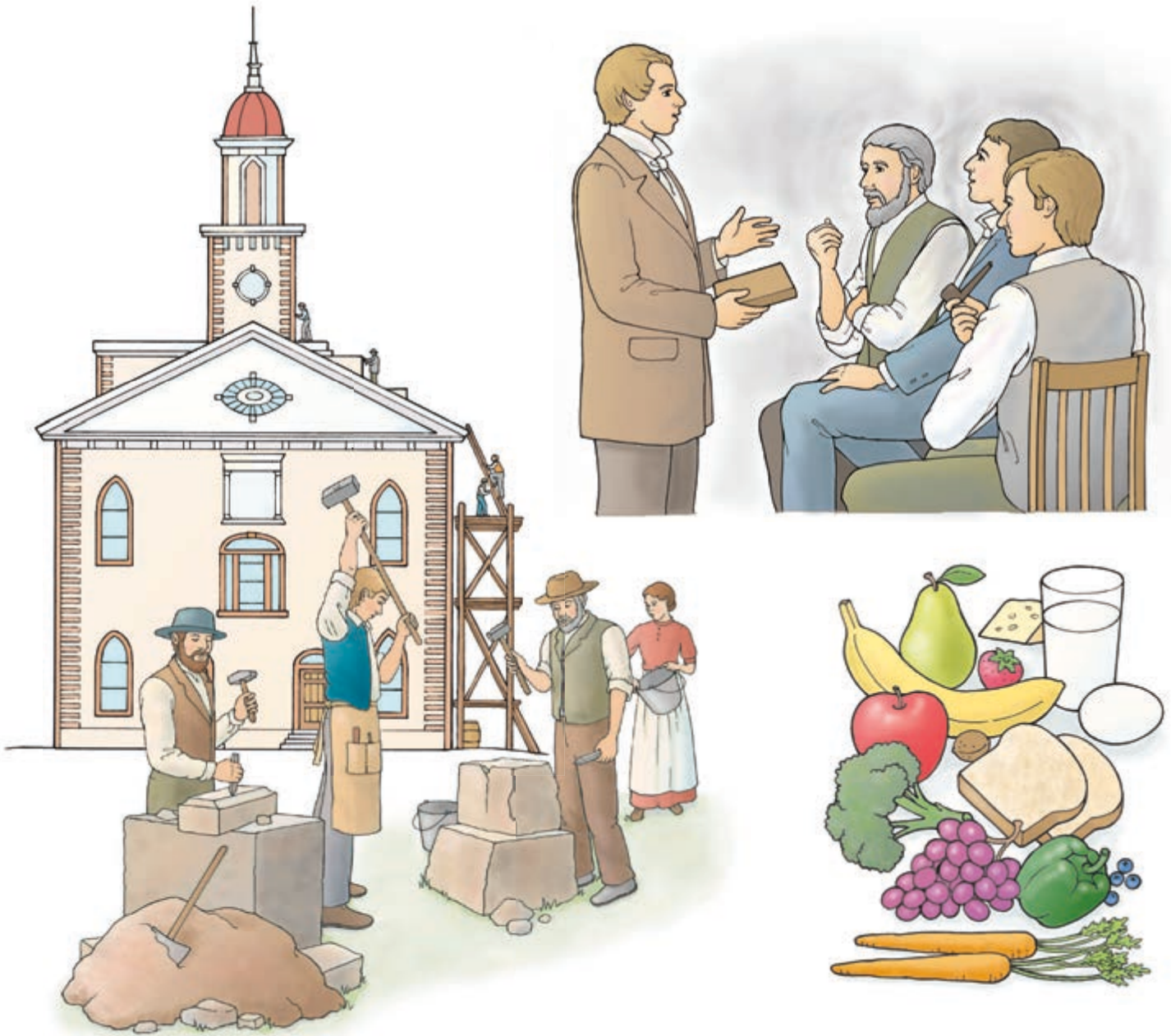


いのりながら家族評議会を開くことで、家庭に救い主をまねくことができます。
家族が幸せになるための助けが得られます。

「家族評議会」『リアホナ』2016年5月号、63 - 65から

カートランドと知恵の言葉

これらの絵を切り取って、教会歴史の物語を分かち合しましょう。



初期の聖徒たちがオハイオ州カートランドに住んでいたとき、主は人々に神殿を建てるように言われました。(神殿がほうけんされた後に起こった出来事については、教義と聖約第 110 章を読みましょう。)主はまたジョセフ・スミスに、教会指導者に福音を教えるためのじゅくを始めるように言われました。このじゅくに来ていた男の人たちの多くは、たばこをすったり、かみたばこをかんだりしていました。ジョセフとエマは、けむりくさい、きたないたばこが好きではありませんでした。ジョセフがそれについてどうしたらよいかを主に尋ねると、げんざい「知恵の言葉」とよばれるけいじを受けました。教義と聖約第 89 章に書かれています。

liahona.lds.org では、もっとたくさんの教会歴史の登場人物が見られます。

イエスは弟子たちに、人々がそこからはなれないですむように、
食べ物をあたえるように言われました。でも、弟子たちは5つの
パンと2ひきの魚しか持っていませんでした。すべての人に食べ
物をあたえるにはとても足りません。



イエスは食べ物を祝福し、細かく
さかれました。そして弟子たちが
人々に配りました。食べ物は足り
たのでしょうか。



なん ぜん にん こども じょせい だんせい さかな た お
何千人もの子供たちや女性や男性がパンや魚を食べました。人々が食べ終わって
から た もの あつ めると、12 かごの た もの のこ
食べ物を集めると、12かごの食べ物が残っていたのです。それはきせきでした。
きせきは こん にち も この ちじょう お
きせきは今日もこの地上で起こります。■

マタイ 14:13 - 21 から

いろ
色をぬりましょう

せ い ぶ ん よ す
わたしは聖文を読むのが好きです

子
供



アキアス・ピロノフ・アキアス



大管長会第一顧問
J・ルーベン・
クラーク・ジュニア管長
(1871 - 1961年)

最後尾の幌馬車を 押していた人々

最後尾の幌馬車を押していた人々には、献身と忠誠と高潔さがありました。しかし、それ以上に、何にも増してあったのが、幹部の兄弟たちと神の力とに寄せる信仰だったのです。

果てしない平原を苦勞しながらゆっくりと進むそれぞれの長い手車隊列の、最後尾についている幌馬車について少しお話ししたいと思います。……

……最後尾の幌馬車ともなると、はるか前方を進む幹部の兄弟たちの顔をいつも見られたわけではなく、地上から舞い上がる重く濃い土ぼこりのために、視界が遮られて、青い空が見えないことも度々でした。それでも、来る日も来る日も、最後尾の幌馬車を押していた人たちは、疲れ果て、足の痛みと戦い、時には失意に打ちひしがれながらも、神が自分たちを愛してくださり、回復された福音は真実であって、主が前を進む兄弟たちを導いておられるという信仰に力づけられながら、前進を続けたのです。時に、最後尾の幌馬車を押していた人たちは、ほんの一瞬だけ、信仰が最も強くなったときだけ、天の栄光を垣間見ることがあったかもしれませぬ。しかし、それははるかかなたのことでした。そんな示現のような幻もあつという間に消えていきます。物もなく、疲れ果て、心を痛め、時に



は失意に襲われるという状況が、日常的に身近に押し寄せていたからです。

先の見通しが消えれば、その心は沈みます。しかし、それでも彼らは祈りをささげ、前進を続けました。称賛を受けることはほとんどなく、励ましも多くは与えられず、お世辞などとはまったく無縁の状況でした。……それでも、最後尾の幌馬車を押していた人々には、献身と忠誠と高潔さがありました。しかし、それ以上に、何にも増してあったのが、幹部の兄弟たちと神の力と優しさとに寄せる信仰だったのです。……

こうして、舞い上がる土ぼこりの中を、……彼らはゆっくりと進み、溪谷の入り口を幾つも越えました。そして、あの大盆地が休息と家庭とを備えて歓迎してくれる日が来たのです。……

しかし、疑うことを知らない信仰と偉大な勇気とを持ったこの数多くの勇敢な人々にとって、彼らの旅はここで終わりではありませんでした。

ブリガム〔・ヤング〕兄弟が、神の

王国の旗印を打ち立てるため、彼らを再び召したのです。大盆地からの距離の大小を問わず、避け所となる広大な山々の中に、溪谷を切り開いて定住するようにと送り込んだのでした。こうして彼らは再び牛にくびきをかけ、隊列を組み直して、……新しい溪谷へとゆっくりとした歩みを始めました。自分のたちのモーセの知恵と神から与えられる導きとに、再び揺るぎない信頼を寄せたのです。……

こうして、何千何万という人々が、最初の時代から今に至るまで、皆、神から選ばれた者となって、目立たない召しと行く末とに完全に従いました。それはブリガム兄弟やほかの指導者としてまったく同じでした。神はそのような人々に必ず報いを与えることでしょう。彼らは、言葉においても思いにおいても行いにおいても開拓者でした。もっと高い地位にある人々と同じでした。この山岳地帯に帝国を築くということは、少数の選ばれた人々が片隅で行ったものではありません。数多くの国々から移り住んで来た大勢の人々が、集まり、働き、汗して、神から召された自分たちの指導者に忠実に従った結果なのです。……

ですから、この謙遜で偉大な人々に対して、……わたしはへりくだって、わたしの愛と敬意をお伝えし、心からの賛美をささげます。■

1947年10月の総大会での説教“To Them of the Last Wagon”から



「最後尾の幌馬車を押す人々」
(カリフォルニア, 1954年)
リン・フォーセット画

イエス・キリストへの信仰に支えられ、開拓者たちは後に「モルモン・トレイル」と呼ばれることになる1,000マイル(約1,600キロ)の道のりを、ソルトレーク盆地に向かって勇敢に進んで行った。一団の最後尾にいた人々は、指導者たちの姿がいつも見えるわけではなかったが、確固とした足取りで前進した。

今月号のその他の記事

ヤングアダルト

わたしを 救ってくれた 唯一のもの

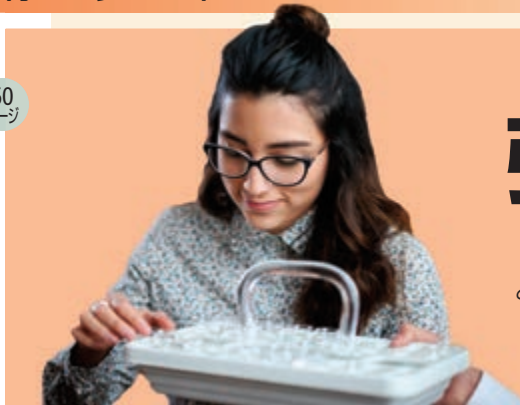
秀峰は人種差別と拒絶に直面しましたが、福音と出会い、もう一度人々を信頼することを学びました。



44
ページ

青少年

50
ページ



一週間を通して 強くある

聖餐を取ることで、一週間を通してどのように強くあることができるでしょうか。

子供

質問コーナー

子供たちはいつから断食を始めることができるでしょうか。



70
ページ



末日聖徒
イエス・キリスト
教会